3　仕事、働き方について

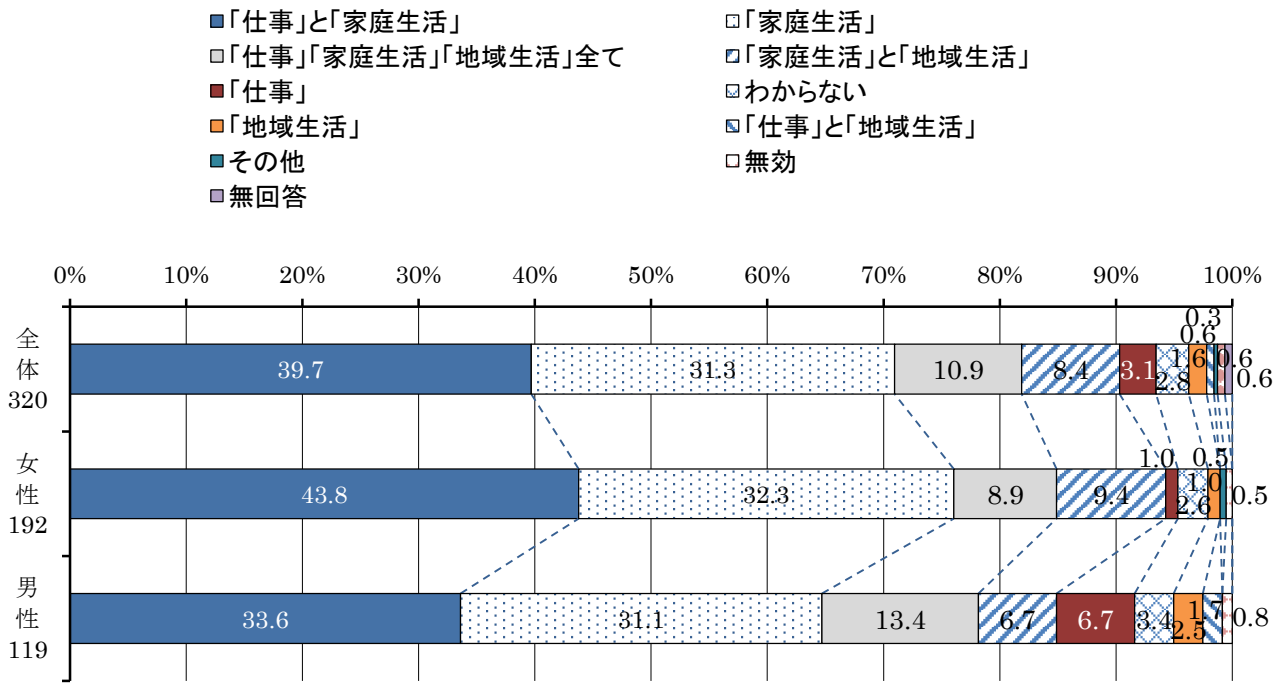
問１２　生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域生活」の内、あなたが最も優先したいと思う形はどれですか。（○は１つ）

最も多いのが「仕事と家庭生活」で 39.7%、次いで「家庭生活」31.3%、「仕事、家庭生活、地域生活全て」10.9%、「家庭生活と地域生活」8.4%と続きました。

男女別では、女性は男性に比べ「仕事と家庭生活」の回答の割合が高く（女性 43.8%、男性 33.6%）、また、「家庭生活と地域生活」（女性 9.4%、男性 6.7%）も女性での割合が高くなっています。

男性が女性に比べ割合が高かった回答は、「仕事、家庭生活、地域生活全て」「仕事」「地域生活」「仕事と地域生活」でした。

図　男女別　生活における「仕事」「家庭生活」「地域生活」 の優先順位

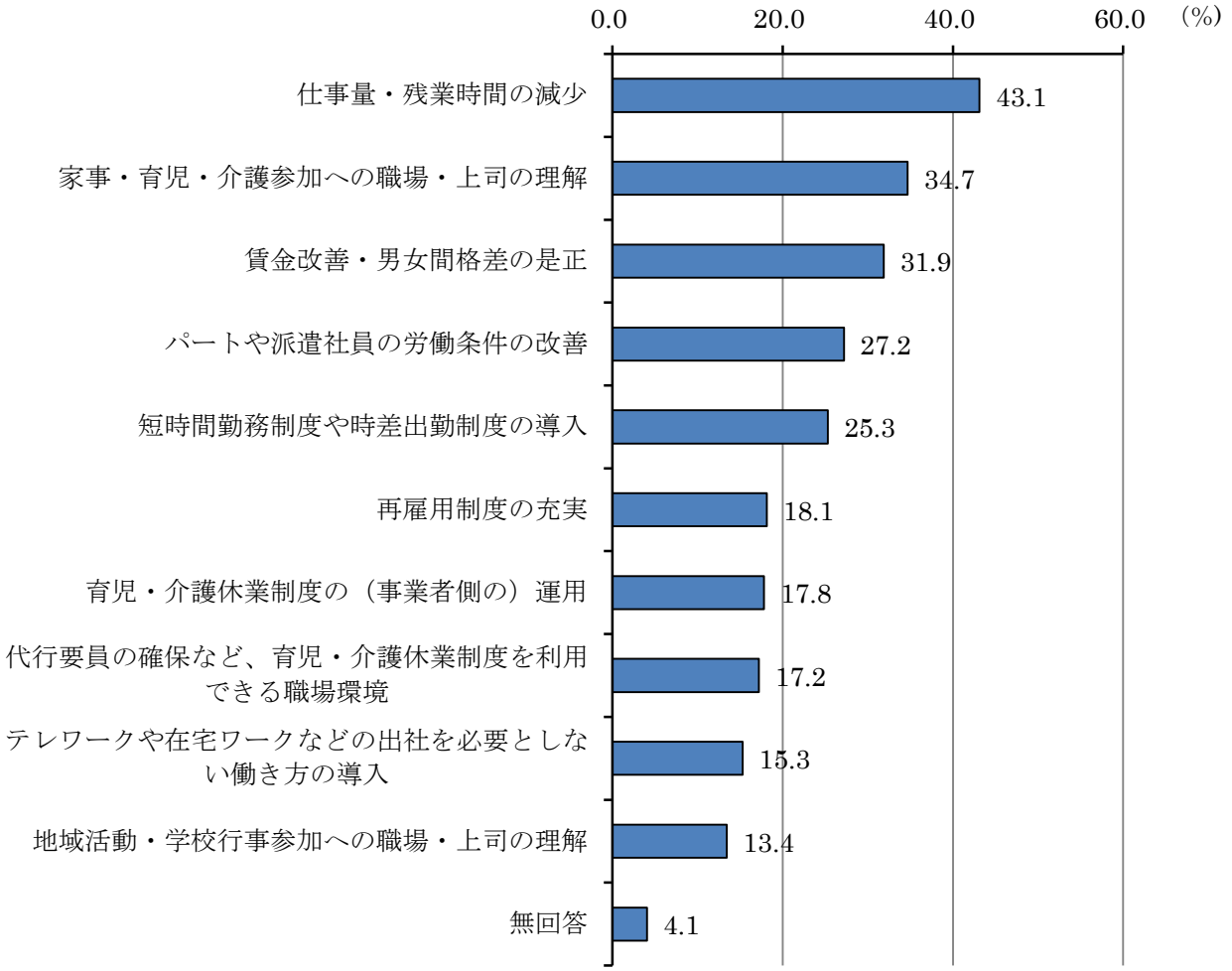


問 13　男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくための雇用環境として、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

最も多い回答が「仕事量・残業時間の減少」で 43.1%、次いで「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」34.7%、「賃金改善・男女間格差の是正」31.9%、「パートや派遣社員の労働条件の改善」27.2%、「短時間勤務制度や時差出勤制度の導入」25.3%と続きました。

その他の項目もいずれも 10%を上回っており、さまざまな面で雇用環境の整備が必要とされる状況が存在します。

図　仕事と家庭生活の調和を実現するために雇用環境として必要なこと

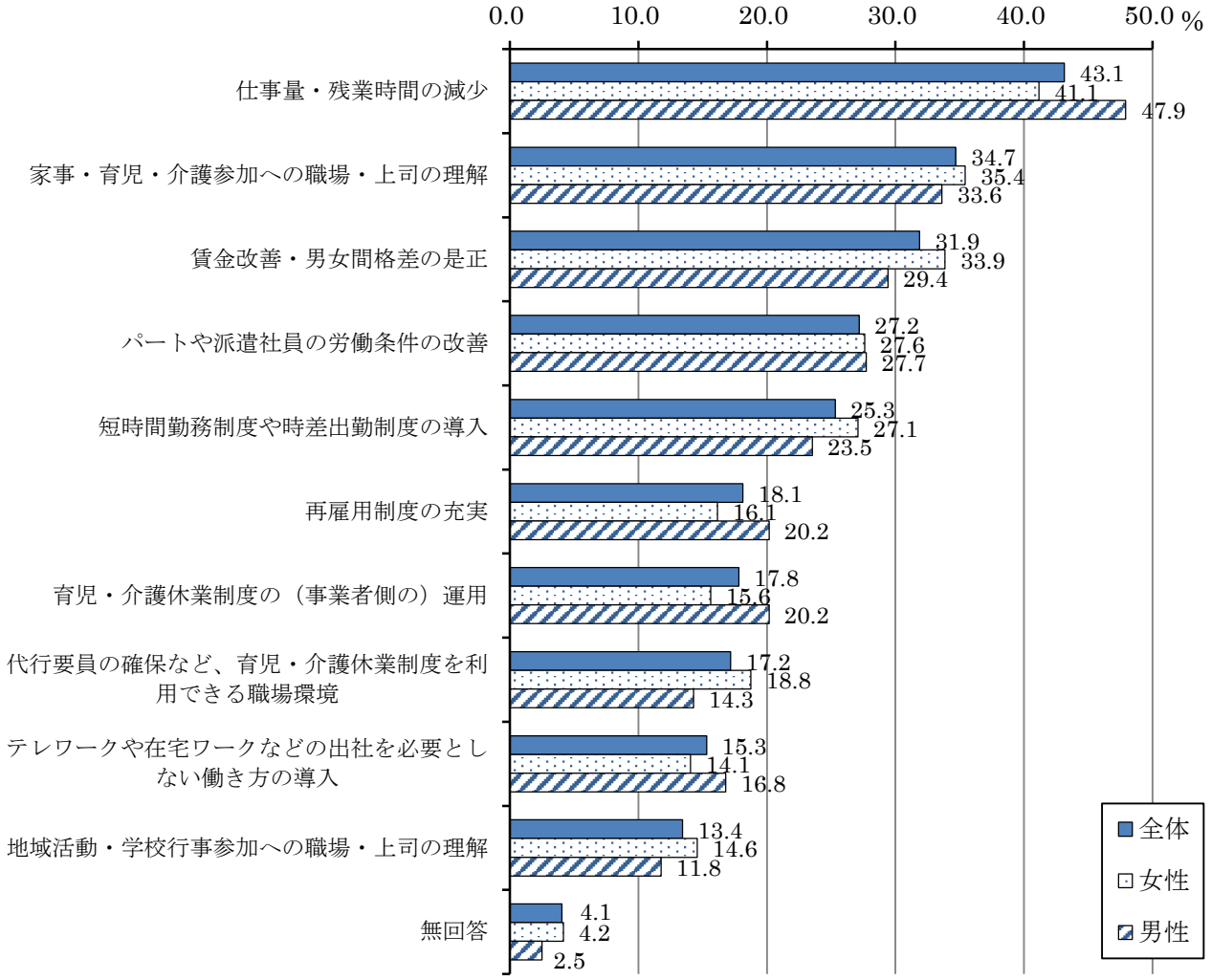


（１）男女別

女性が男性より高い回答をしていて、その差異が大きなものとしては、「賃金改善・男女間格差の是正」（女性 33.9%、男性 29.4%）、「短時間勤務制度や時差出勤制度の導入」（女性 27.1%、男性 23.5%）、「代行要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる環境」（女性 18.8%、男性 14.3%）がありました。

男性が女性より高い回答をしていて、その差異が大きなものとしては「仕事量・残業時間の減少」（女性 41.1%、男性 47.9%）、「再雇用制度の充実」（女性 16.1%、男性 20.2%）、「育児・介護休業制度の（事業者側の）運用」（女性 15.6%、男性 20.2%）等があります。

図　男女別　仕事と家庭生活の調和を実現するために雇用環境として必要なこと

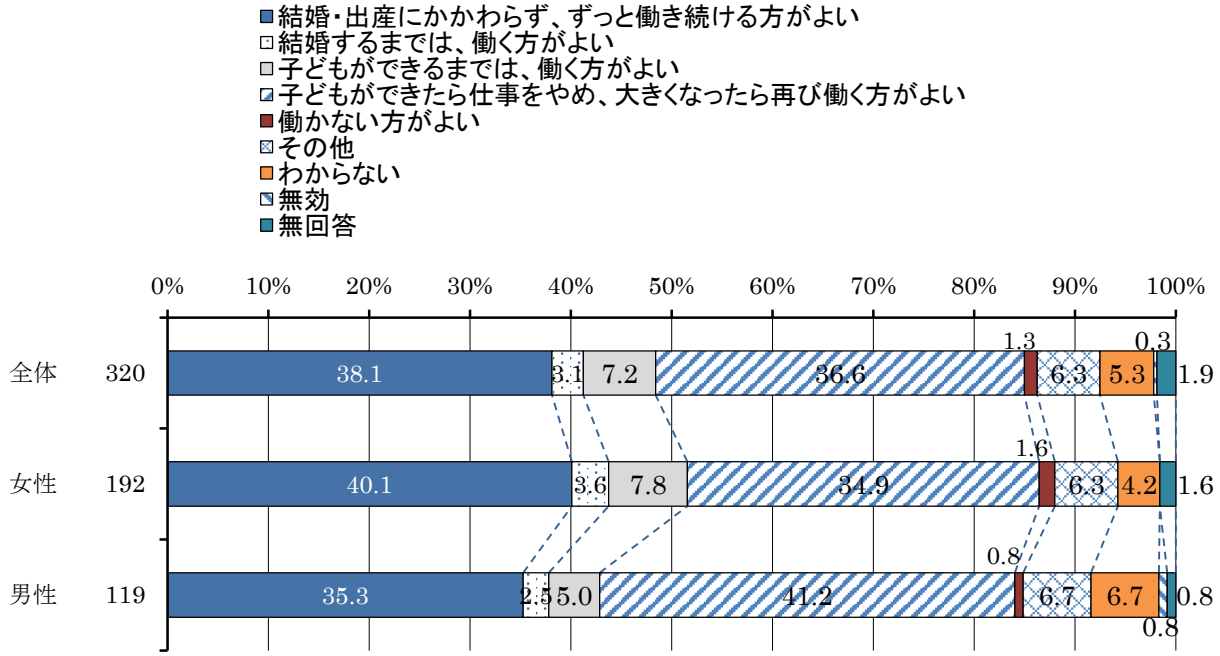


問 14　あなたは、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。（○は１つ）

「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」で 38.1%、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」36.6%が続きました。前回調査では、各々23.9%、50.4%であり、「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」が大きく増加、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」が大きく減少しています。

男女別では、「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」は女性 40.1%、男性 35.3%と女性で高く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」は、女性 34.9%、男性 41.2%と男性で高い割合になっています。

図　男女別　女性が働くことについて



●その他回答

・経済的に自立余裕が充足しているなら、自分の関心分野を極める。
・自分のしたいようにするのがよい　　・人それぞれなので個人個人でちがうのでなんとも言えない。
・結婚・出産・子どもの成長をきっかけに自分や家族の幸せを考えて決めていけばいい　選択肢は多いと選ぶ人は安心できる
・人それぞれだと思う　・自分の好きな様にすればよい　・働き続けたい、子育てに専念したいと思うのは人それぞれ
・その家庭による　　・個人の価値感、生活環境に適した方法がよい　・その女性の家族関係や、生活環境による
・本人の意志次第　　・個人が自分で決めることだと思う。　　・その時の状況に応じて夫婦で話して決める
・設問の内容がおかしい。働きたい時に働けるようにするのがよい
・男女ともに１～５まで選択できる社会環境がよい
・ワーク・ライフ・バランス個人によって色々で良い
・女性自身のせんたくで、女性も働らくべきとしなくても良いと思う
・家で、子供を見る者がいれば、働く方が良い
・子どもが生まれて、乳児期は休暇を取ることができ、その後はまた復帰できる職場環境がよい。
・働き続けたい人は働き続け、家事に専念したい人はそうできることが１番良いと思う。
・自分が続けたいと思えば続けられ、やめたいと思えばやめられる－どんな状況でも自分で選択できるのがよい。

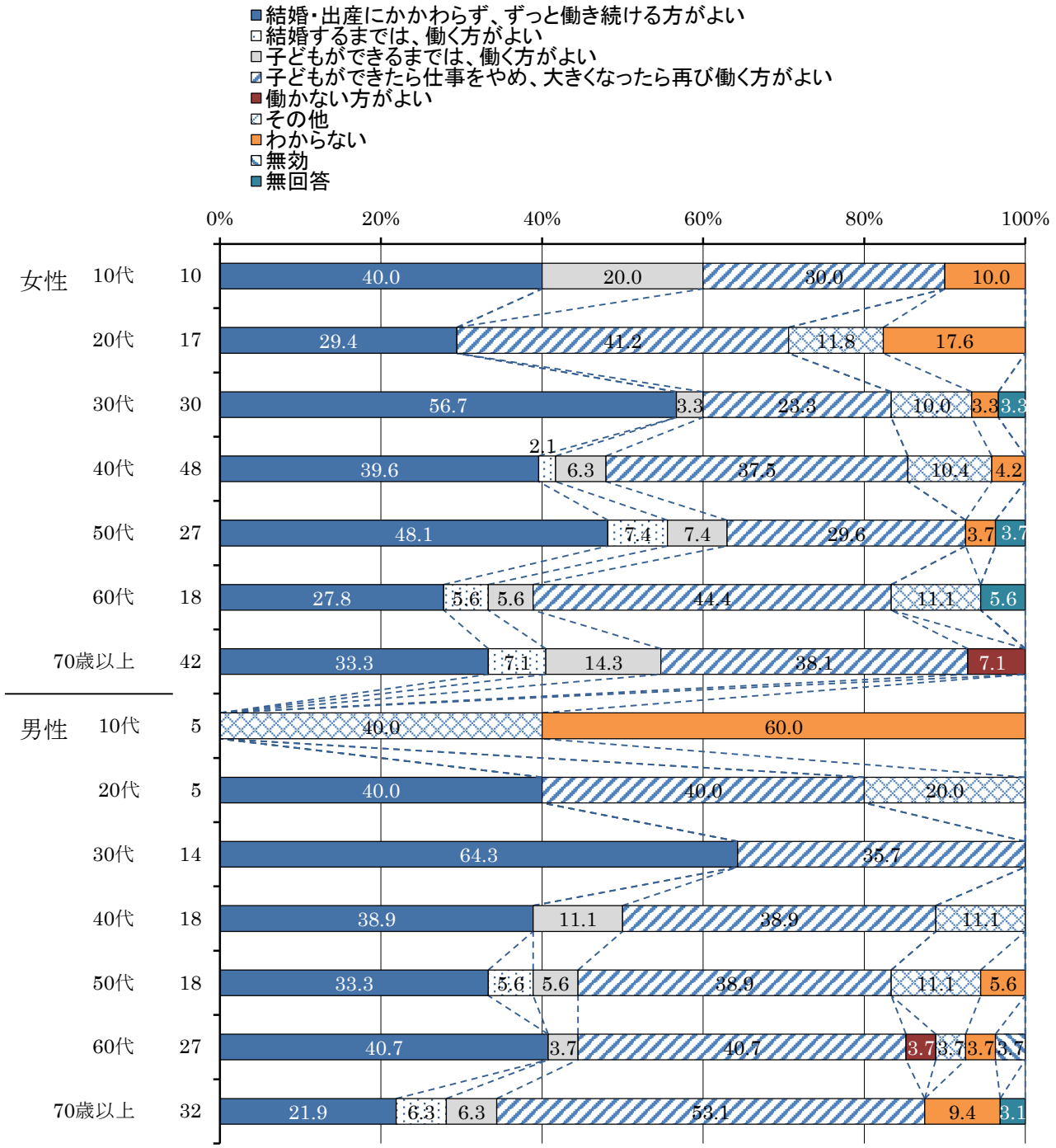
（1）男女別･年代別

「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」は、特に 30 代で男女ともに高い（女性 56.7%、男性 64.3%）割合でした。また、50 代女性も 48.1%と高くなっています。

「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」は、20 代で男女ともに高く、女性 41.2%、男性 40.0%です。また、60 代、70 代でも比較的高く、60 代女性 44.4%、60 代男性 40.7%、70 代以上女性 38.1%、70 代以上男性 53.1%でした。

10 代では、10 代女性で「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」が 40%で最も高い一方で、「子どもができるまでは働く方がよい」「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の計も 50%にのぼりました。

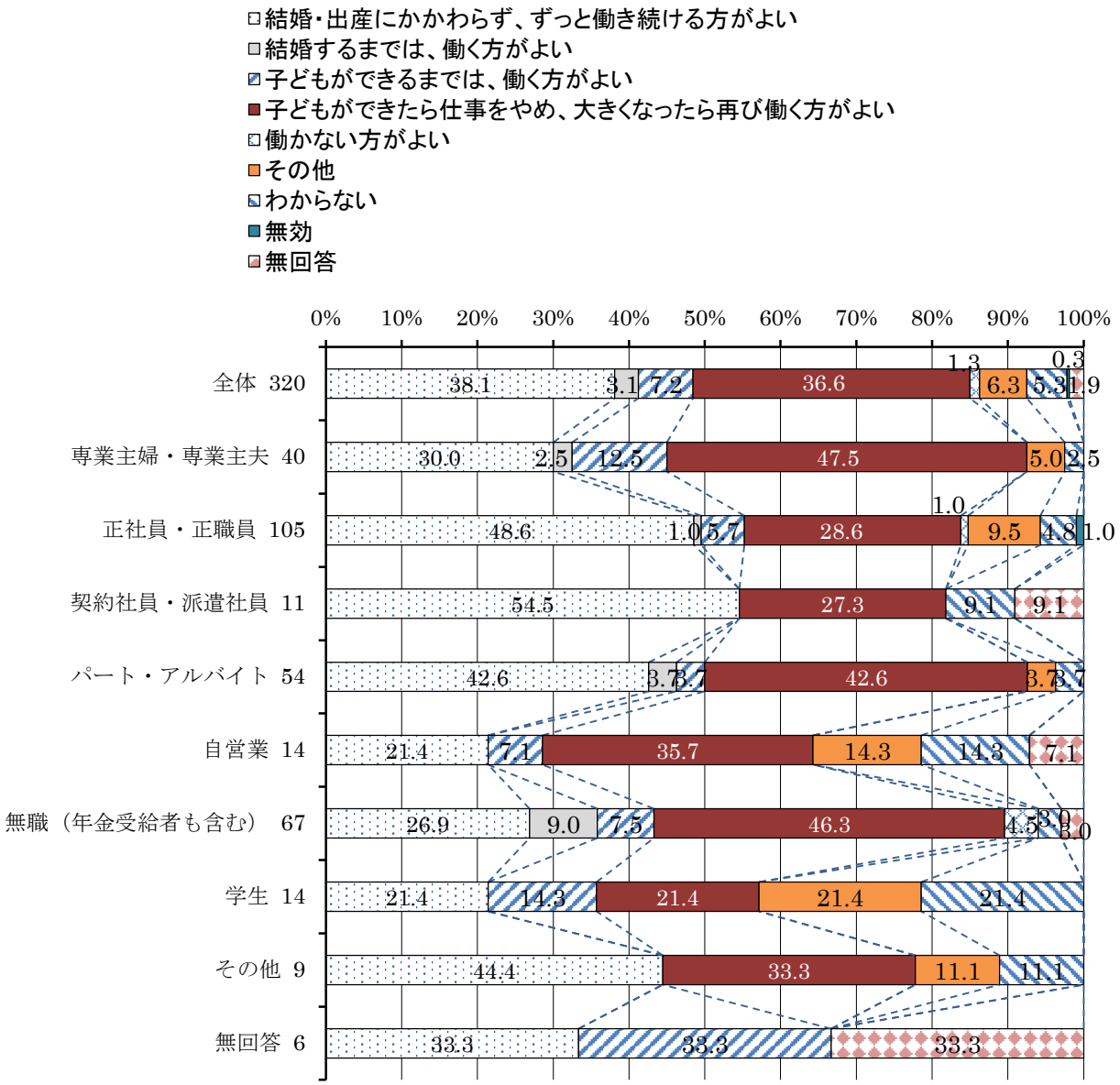
図　男女別　年代別　女性が働くことについて



（２）職業別

「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」は、契約社員・派遣社員で 54.5%、正社員・正職員 48.6%で高く、自営業 21.4%、無職 26.9%、専業主婦・主夫 30.0%で低くなっています。また、学生は、「その他」「わからない」の割合が高く、また、「ずっと働き続ける方がよい」は 21.4%と比較的低い割合になりました。

図　職業別　女性が働くことについて

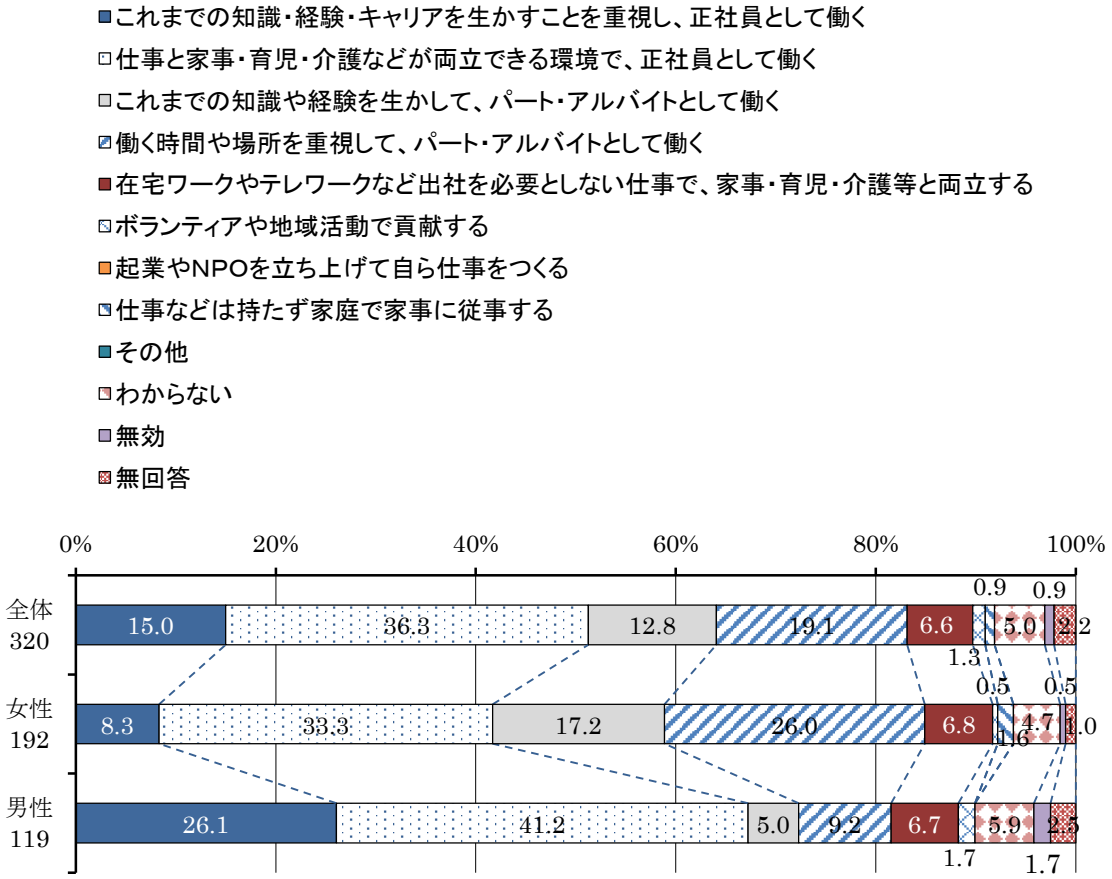


問 15　あなたが、いったん出産・育児・介護などで離職した場合、次にどのような働き方や生活がしたいですか。（○は１つ）

最も多い回答が「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」36.3%、次いで「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」19.1%でした。「これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く」15.0%、「これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働く」12.8%となっています。上位２つは、離職後の働き方として生活とのバランスがより重視される回答になっています。

男女別での意向の差異は大きく、女性では、「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」33.3%に次いで、「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」26.0%、「これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働く」17.2%で、後者２つのパート・アルバイトの働き方が 43.2%に上っています。対して、男性では「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」41.2%に次いで、「これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く」26.1%で、正社員の働き方が計 67.3%、パート・アルバイトの働き方が計 14.2%に留まりました。

図　男女別　出産・育児・介護等で離職した後に希望する働き方や生活

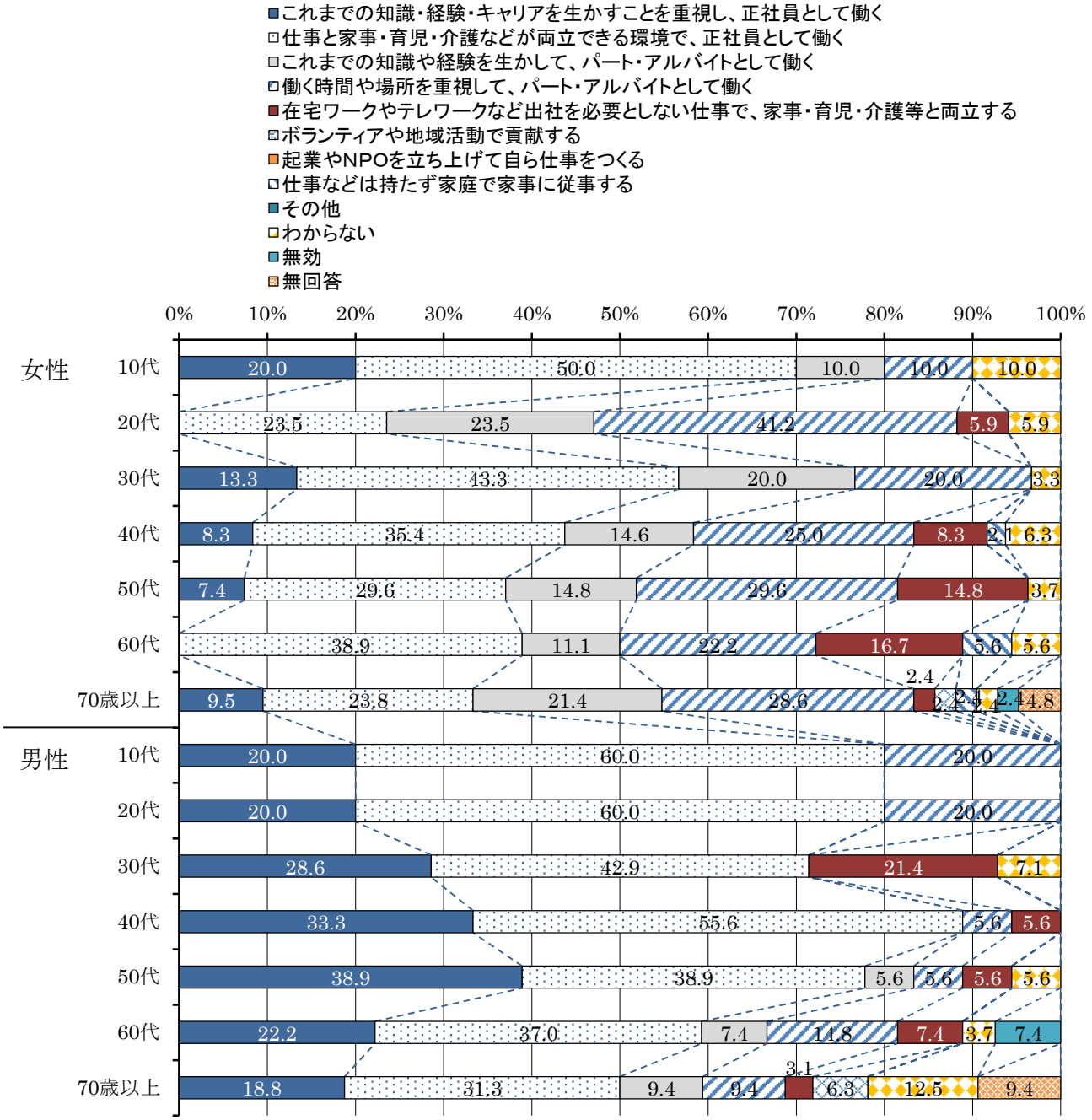


（1）男女別・年代別

女性では、20 代と 70 代以上を除いて「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」が各々最も高い割合を占め、また 10 代を除いて 2 番目に高いのは「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」でした。20 代と 70 代以上では、「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」が最も高い割合となっています。

男性では、全ての年代で「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」が最も高く、2 番目に多いのは、「これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く」でした。特に、30 代から 50 代では、この回答の割合が高くなっています。

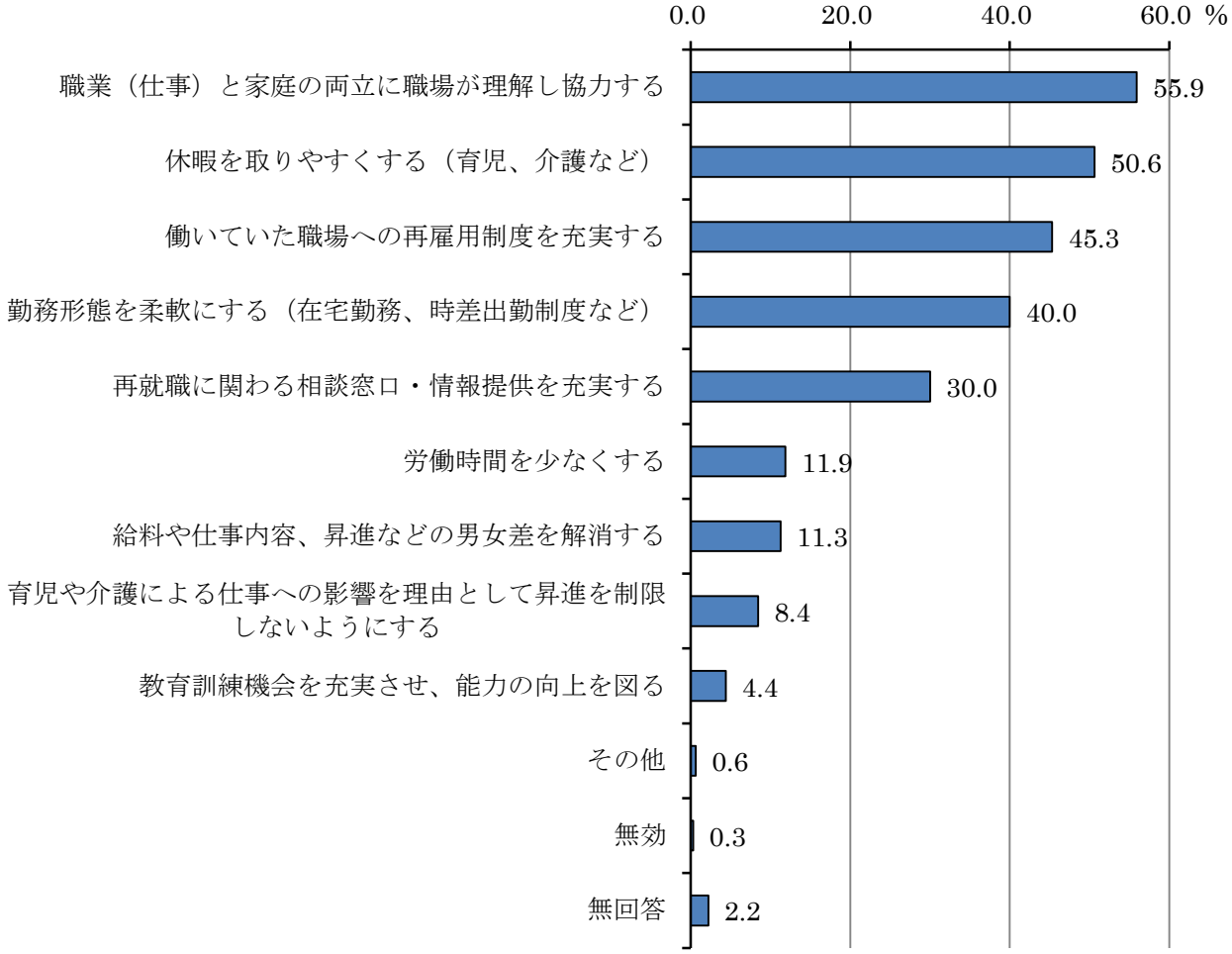
図　男女別　年代別　出産・育児・介護等で離職した後に希望する働き方や生活



問 16　結婚や出産、介護などで離職した人が、再び職業をもち、安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。　（○は３つまで）

最も多い回答が「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」で 55.9%、次いで「休暇を取りやすくする（育児、介護など）」50.6%、「働いていた職場への再雇用制度を充実する」が 45.3%、「勤務形態を柔軟にする（在宅勤務、時差出勤制度など）」40.0%、「再就職に関わる相談窓口・情報提供を充実する」30.0%の順となりました。

図　離職した人が再び安心して働けるために必要な環境



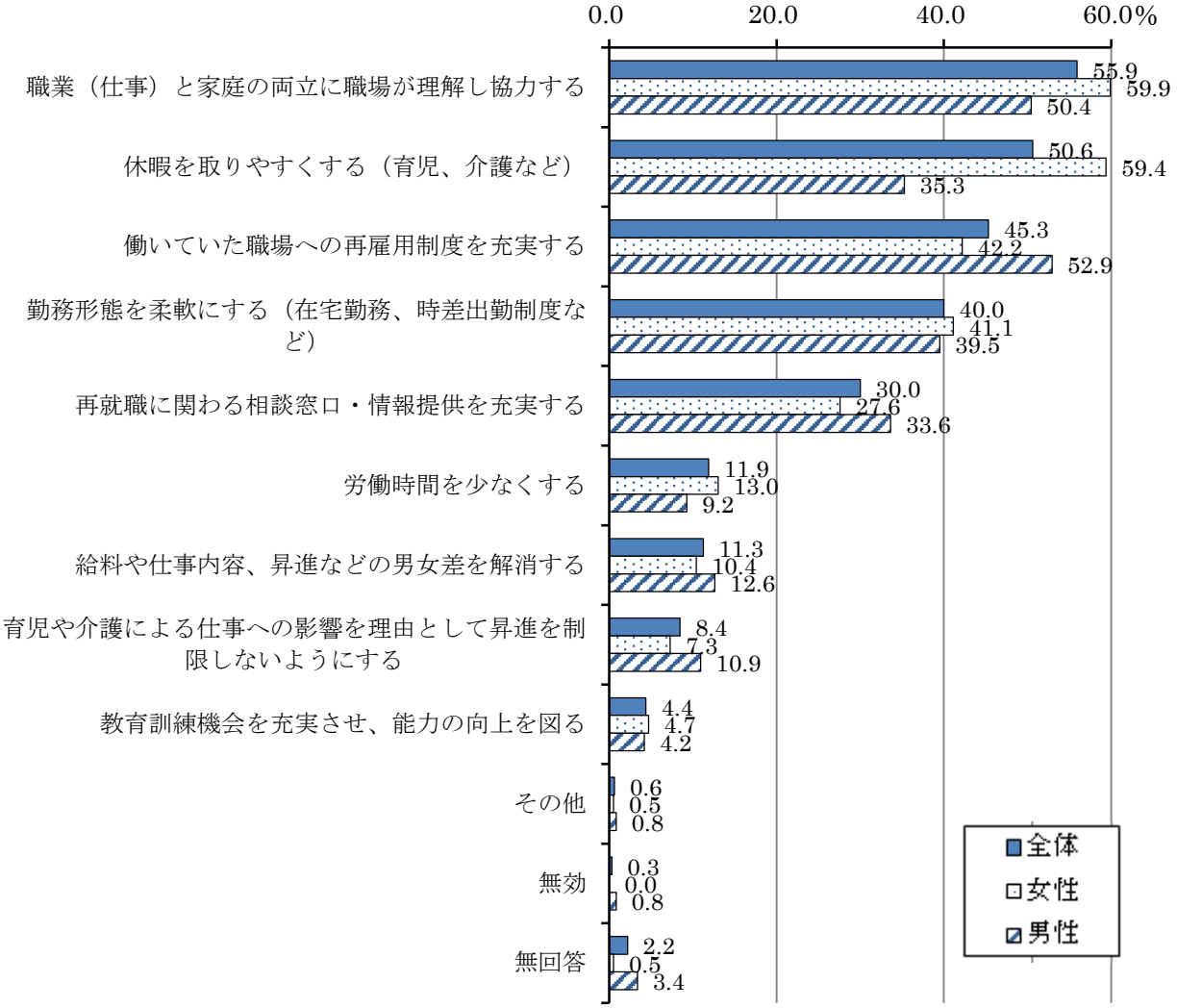
●その他回答

・メンタルケア
・本人のやる気

（１）男女別

上位４つの回答の中で、女性が男性と比べ高い割合になった項目は、「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」（女性 59.9%、男性 50.4%）、「休暇を取りやすくする（育児、介護など）」（女性 59.4%、男性 35.3%）でした。逆に、男性が女性と比べ高い割合になった項目は、「働いていた職場への再雇用制度を充実する」（女性 42.2%、男性 52.9%）です。「勤務形態を柔軟にする（在宅勤務、時差出勤制度など）」は、男女ともに 40%前後になりました。

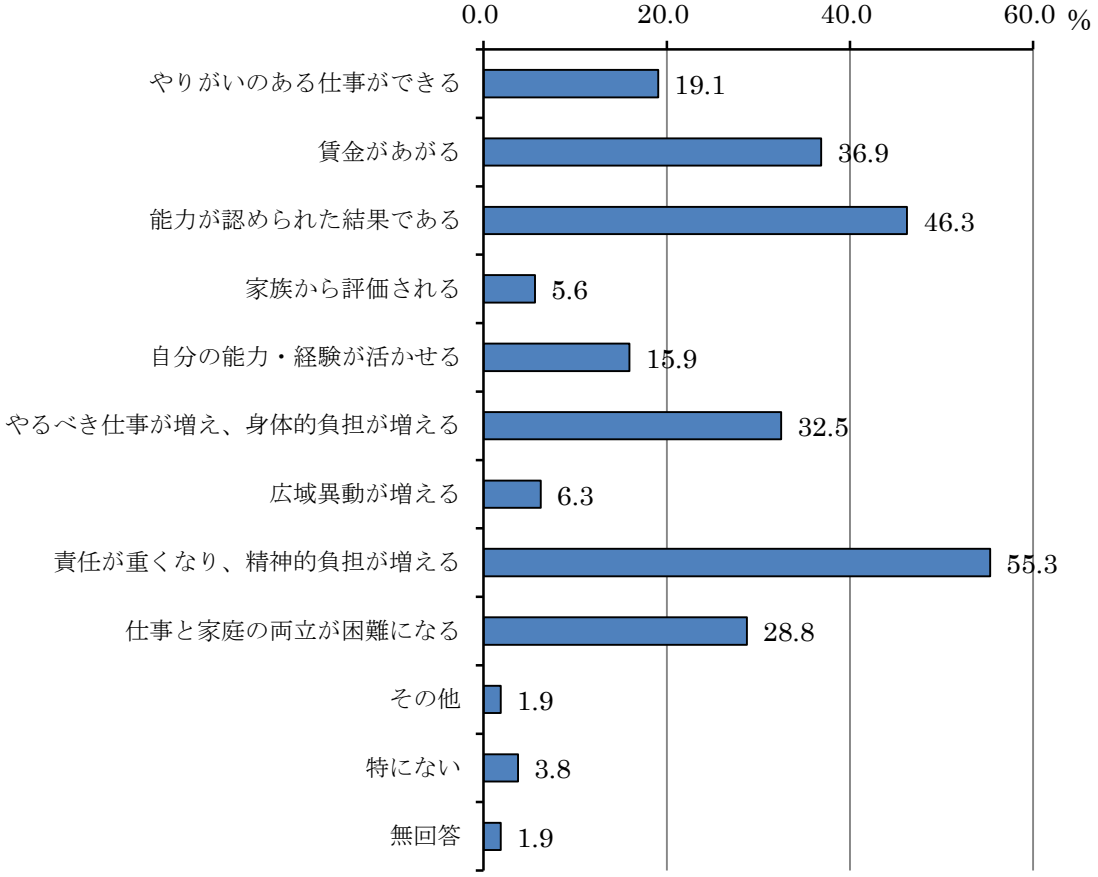
図　男女別　離職した人が再び安心して働けるために必要な環境



問 17　管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。（○は３つまで）

「責任が重くなり、精神的負担が増える」55.3%が最も高い結果となりました。次いで「能力が認められた結果である」46.3%、「賃金があがる」が 36.9%となり、肯定的なイメージも持たれています。しかし、４位以下は「やるべき仕事が増え、身体的負担が増える」32.5%、「仕事と家庭の両立が困難になる」28.8%と続き、最多の「責任が重くなり、精神的負担が増える」を含めて、負担を感じるという回答も多い結果となっています。

図　管理職以上に昇進することのイメージ



●その他回答

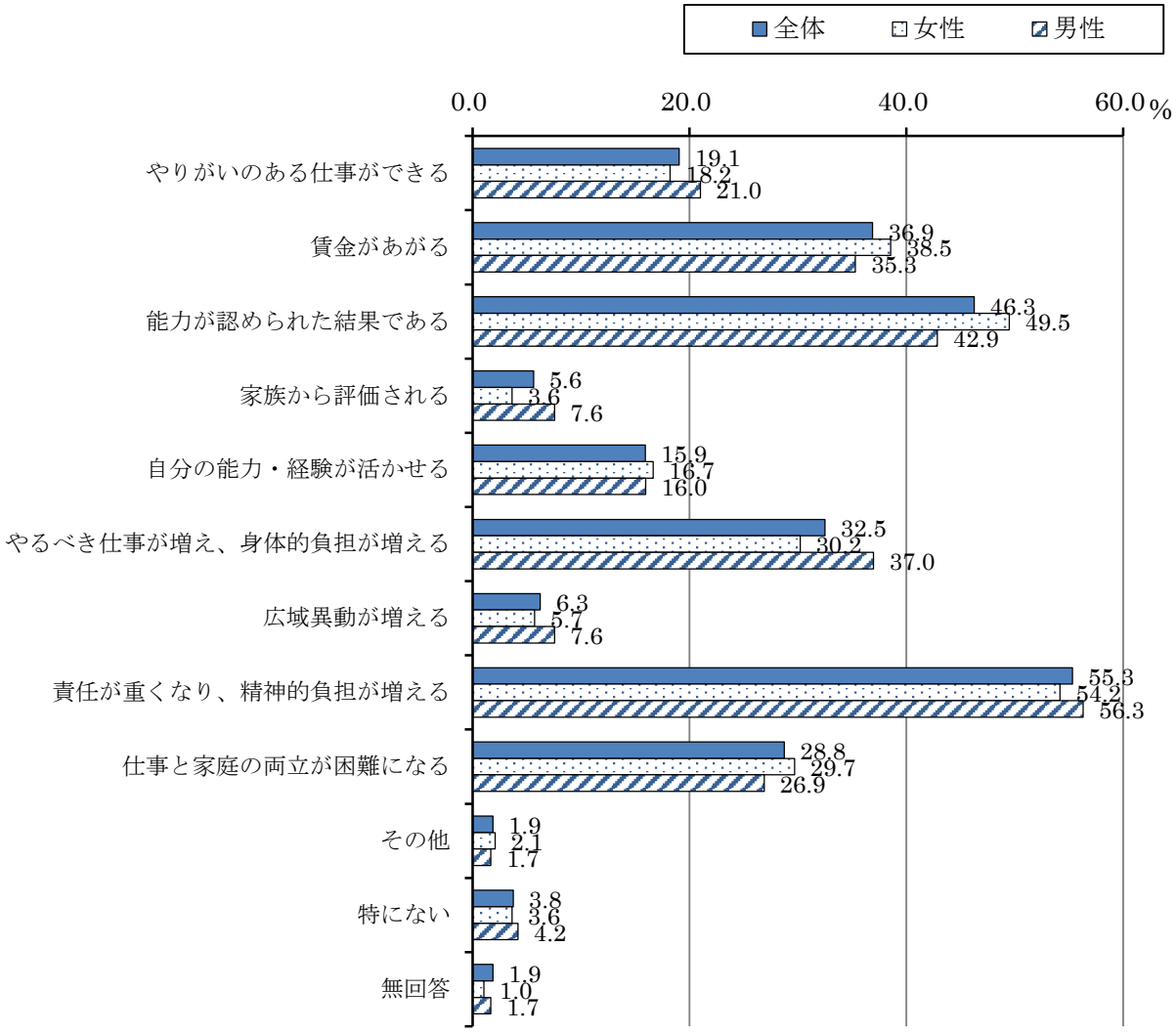
・長年勤めていればなれる
・わからない
・魅力がない
・年功序列

（1）男女別

女性が男性より高かった回答には、「能力が認められた結果である」女性 49.5%、男性 42.9%、「賃金があがる」（女性 38.5%、男性 35.3%）と肯定的なものがありますが、「仕事と家庭の両立が困難になる」（女性 29.7%、男性 26.9%）もありました。

男性が女性より高かった回答には、「責任が重くなり、精神的負担が増える」（女性 54.2%、男性 56.3%）、「やるべき仕事が増え、身体的負担が増える」（女性 30.2%、男性 37.0%）などがあります。

図　男女別　管理職以上に昇進することのイメージ



（2）男女別･年代別

女性では、20 代と 30 代で「賃金があがる」の割合が最も高く、次いで「責任が重くなり、精神的負担が増える」でした。30 代女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」も 40.0%と比較的高めでした。40 代～60 代の女性では、「責任が重くなり、精神的負担が増える」の割合が最も高く、次いで「能力が認められた結果である」が続きました。

70 代以上では男女ともに、「能力が認められた結果である」が最も高くなりました。

男性では、40 代・70 代以上を除くすべての世代で「責任が重くなり、精神的負担が増える」が最も高く、10 代・30 代・60 代では次いで「賃金があがる」、20 代・50 代では「やるべき仕事が増え、身体的負担が増える」でした。40 代のみ「能力が認められた結果である」が最も高くなりました。

表　男女別　年代別　管理職以上に昇進することのイメージ

単位 ： %

性別	年代	回答数	やりがいのある仕事ができる	賃金があがる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分の能力・経験が活かせる	やるべき仕事が増え、身体的負担が増える	広域異動が増える	責任が重くなり、精神的負担が増える	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	無回答
女性	10 代	10	20.0	30.0	20.0	0.0	10.0	50.0	10.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	20 代	17	11.8	70.6	35.3	0.0	0.0	17.6	11.8	58.8	23.5	0.0	5.9	0.0
	30 代	30	3.3	60.0	46.7	0.0	6.7	36.7	3.3	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	40 代	48	25.0	33.3	50.0	2.1	18.8	41.7	6.3	62.5	25.0	4.2	2.1	0.0
	50 代	27	14.8	33.3	51.9	0.0	7.4	29.6	0.0	66.7	33.3	0.0	3.7	3.7
	60 代	18	5.6	44.4	55.6	5.6	22.2	22.2	11.1	66.7	22.2	0.0	5.6	0.0
	70 歳以上	42	31.0	19.0	59.5	11.9	33.3	16.7	4.8	35.7	35.7	4.8	7.1	2.4
男性	10 代	5	0.0	60.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	20 代	5	20.0	40.0	40.0	0.0	20.0	60.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	30 代	14	14.3	50.0	28.6	0.0	21.4	42.9	0.0	64.3	28.6	0.0	0.0	0.0
	40 代	18	27.8	44.4	66.7	0.0	22.2	38.9	0.0	55.6	33.3	0.0	5.6	0.0
	50 代	18	22.2	22.2	33.3	5.6	11.1	38.9	0.0	55.6	22.2	5.6	5.6	5.6
	60 代	27	25.9	37.0	33.3	7.4	22.2	29.6	18.5	51.9	25.9	0.0	3.7	0.0
	70 歳以上	32	18.8	25.0	53.1	12.5	9.4	34.4	12.5	50.0	31.3	0.0	6.3	3.1

4　地域活動について

問 18　あなたは、どのような地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

「自治会・町内会活動」の割合が最も高く 43.1%であり、次いで「特に参加していない」35.3%となっています。前回の数値は、「自治会・町内会活動」が 41.1%、「特に参加していない」40.0%であり、この２つの回答では、活動に参加している割合は微増しています。

前回調査と比べて、多くの活動項目で参加率は増加しましたが、「老人クラブ活動」（今回 7.5%、前回 8.6%）、「スポーツ・レクリエーション活動」（今回 11.3%、前回 17.0%）で前回より減少しました。

男女別では、女性は男性と比べ「PTA 活動」（女性 13.0%、男性 3.4%）「子ども会・青少年活動」（女性 14.1%、男性 6.7%）、「文化活動（趣味・教養）」（女性 14.6%、男性 10.1%）等の割合が高くなっています。他方、男性は女性と比べ、「自治会・町内会活動」（女性 41.7%、男性 47.9%）、「老人クラブ活動」（女性 4.2%、男性 13.4%）の割合が高くなっています。

前回調査との比較では、「自治会・町内会活動」の女性の参加（前回 37.6%、今回 41.7%）は、増えています。また、「老人クラブ活動」の男性の参加は、（前回 11.7%、今回 13.4%）と増えていますが、女性の参加が（前回 5.7%、今回 4.2%）と減ったことにより、全体での参加の数値が下がりました。

表　男女別　地域活動の参加状況　　単位：%

性別	有効回答数	割合 %	自治会・町内会活動	女性団体活動	PTA活動	子ども会・青少年活動	老人クラブ活動	ボランティア活動などの社会奉仕活動	消費者活動	文化活動（趣味・教養）	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動（グループ活動を含む）	その他	特に参加していない	無回答
全体	320	100	43.1	2.2	9.4	10.9	7.5	12.2	0.9	12.8	11.3	3.1	1.3	35.3	1.3
女性	192	100	41.7	3.6	13.0	14.1	4.2	12.5	1.6	14.6	11.5	4.2	1.0	37.0	0.0
男性	119	100	47.9	0.0	3.4	6.7	13.4	11.8	0.0	10.1	11.8	1.7	1.7	32.8	0.8

（１）男女別･年代別

「特に参加していない」の割合は、10 代・20 代で男女ともに高く、また 30 代女性も 56.7%と高くなっています。

30 代女性は、「自治会・町内会活動」には 26.7%、「PTA 活動」「子ども会・青少年活動」に 20.0%参加しています。40 代・50 代女性では、「自治会・町内会活動」への参加率が増えるとともに、「ボランティア活動などの社会奉仕活動」「文化活動（趣味・教養）」「スポーツ・レククリエーション活動」等、様々な地

域活動への参加が見られます。40 代女性は「PTA 活動」「子ども会・青少年活動」がともに 31.3%と高い数値ですが、子どもの成長とともに 50 代以降ではこれらの活動への参加は減少、またはなくなります。60 代・70 代女性では、「自治会・町内会活動」への参加は減少しますが、70 代女性では、「文化活動（趣味・教養)」「ボランティア活動などの社会奉仕活動」「老人クラブ活動」など多様な活動に参加しています。60 代女性もそれらへの参加は見られますが、70 代より低い数値で「特に参加していない」が 44.4%にのぼります。

男性では、30 代以降で「自治会・町内会活動」への高い参加が見られますが、50 代では 33.3%とやや低く、「特に参加していない」の比率が 38.9%と他の年代に比べて高くなっています。また、「スポーツ・レクリエーション活動」が、30 代男性で 21.4%と高いのに対し、40 代男性は 0.0%、60 代男性が 7.4%と年代による差異が大きくなっています。女性と同じく、70 代男性も、多様な地域活動に参加しており、特に「老人クラブ活動」は 43.8%と大変高くなっています（70 代女性は 16.7%)。

表　男女別・年代別　地域活動の参加状況　　単位：%

性別	年代	有効回答数	割合 %	自治会・町内会活動	女性団体活動	PTA活動	子ども会・青少年活動	老人クラブ活動	ボランティア活動などの社会奉仕活動	消費者活動	文化活動（趣味・教養）	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動（グループ活動を含む）	その他	特に参加していない	無回答
女性	10 代	10	100	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	20 代	17	100	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.2	0.0
	30 代	30	100	26.7	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	10.0	3.3	0.0	56.7	0.0
	40 代	48	100	60.4	2.1	31.3	31.3	0.0	12.5	4.2	12.5	8.3	2.1	2.1	16.7	0.0
	50 代	27	100	51.9	0.0	11.1	3.7	0.0	18.5	0.0	18.5	18.5	0.0	0.0	18.5	0.0
	60 代	18	100	38.9	5.6	0.0	5.6	5.6	5.6	5.6	16.7	11.1	5.6	5.6	44.4	0.0
	70 歳以上	42	100	45.2	11.9	0.0	4.8	16.7	23.8	0.0	26.2	19.0	11.9	0.0	28.6	0.0
男性	10 代	5	100	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	20 代	5	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	30 代	14	100	50.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	7.1	0.0	21.4	0.0
	40 代	18	100	44.4	0.0	5.6	16.7	0.0	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6	5.6	33.3	0.0
	50 代	18	100	33.3	0.0	5.6	5.6	0.0	11.1	0.0	11.1	16.7	0.0	0.0	38.9	0.0
	60 代	27	100	51.9	0.0	0.0	7.4	7.4	11.1	0.0	11.1	7.4	0.0	3.7	33.3	0.0
	70 歳以上	32	100	62.5	0.0	0.0	0.0	43.8	25.0	0.0	15.6	18.8	0.0	0.0	18.8	3.1

（２）同居家族別

「特に参加していない」の割合は、「親族以外」「その他の親族」「自分の親・祖父母」と同居している層で 50～60％台と高い割合を占め、この層では、「自治会・町内会活動」への参加が 20～30％前後と低くなっています。また、一人世帯でも「特に参加していない」の割合が 42.9％、「自治会・町内会活動」への参加が 23.8％でした。

また、「PTA 活動」「子ども会・青少年活動」は、「子ども（小学校入学前）」「子ども(小学生以上)」「配偶者の親・祖父母」の間で比較的高い割合ですが、20～30％台でした。また、「子ども(小学生以上)」「一人世帯」で、「文化活動（趣味・教養）」「ボランティア活動などの社会奉仕活動」へ参加する割合が比較的高くなっています。

表　同居家族別　地域活動の参加状況

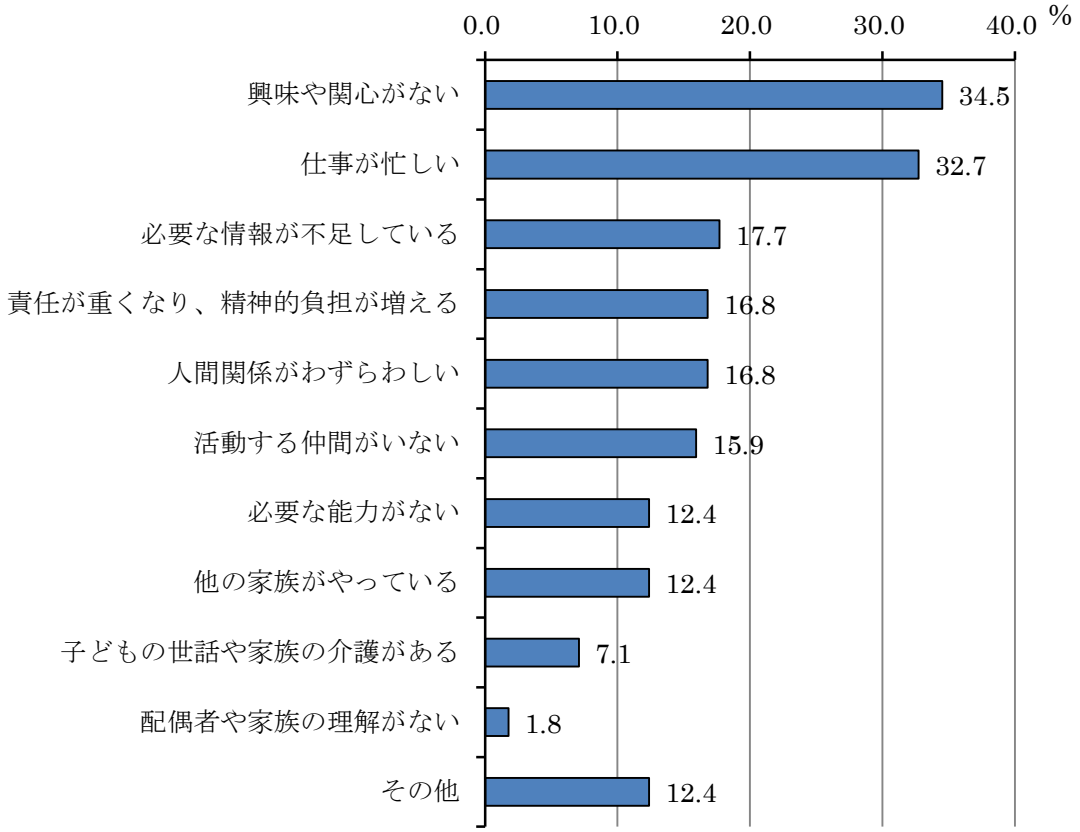
単位 ： ％

同居家族	回答数	自治会・町内会活動	女性団体活動	ＰＴＡ活動	子ども会・青少年活動	老人クラブ活動	ボランティア活動などの社会奉仕活動	消費者活動	文化活動（趣味・教養）	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動（グループ活動を含む）	その他	特に参加していない	無回答
全体	320	43.1	2.2	9.4	10.9	7.5	12.2	0.9	12.8	11.3	3.1	1.3	35.3	1.3
配偶者	220	52.7	1.8	12.3	14.1	6.8	12.7	0.9	13.2	13.2	3.2	0.9	25.9	0.5
子ども（小学校入学前）	42	57.1	2.4	26.2	26.2	2.4	4.8	0.0	7.1	9.5	7.1	0.0	26.2	0.0
子ども（小学生以上）	110	60.0	1.8	26.4	27.3	5.5	17.3	0.9	14.5	10.9	1.8	0.9	17.3	0.0
自分の親・祖父母	64	23.4	0.0	6.3	6.3	0.0	7.8	1.6	9.4	6.3	0.0	1.6	57.8	0.0
配偶者の親・祖父母	22	63.6	0.0	36.4	18.2	4.5	9.1	0.0	4.5	9.1	0.0	4.5	22.7	0.0
その他の親族	32	25.0	6.3	3.1	6.3	9.4	9.4	0.0	15.6	9.4	6.3	0.0	62.5	0.0
親族以外	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
なし（一人世帯）	21	23.8	4.8	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	19.0	9.5	9.5	4.8	42.9	0.0
無回答	19	5.3	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	10.5	15.8

問 19　問 18 で「12．特に参加していない」と答えた方のみにお聞きします。地域活動に参加していない主な理由は何ですか。（○は３つまで）

「興味や関心がない」34.5％で最も高く、次いで「仕事が忙しい」32.7％、「必要な情報が不足している」17.7％となっています。この３つは、前回調査でも上位３つで、前回は「興味や関心がない」26.0％、「仕事（や家事が）忙しい」43.9％、「必要な情報が不足している」18.6％でした。「興味や関心がない」が増え、「仕事が忙しい」が減っています。

図　地域活動に参加しない主な理由



●その他回答

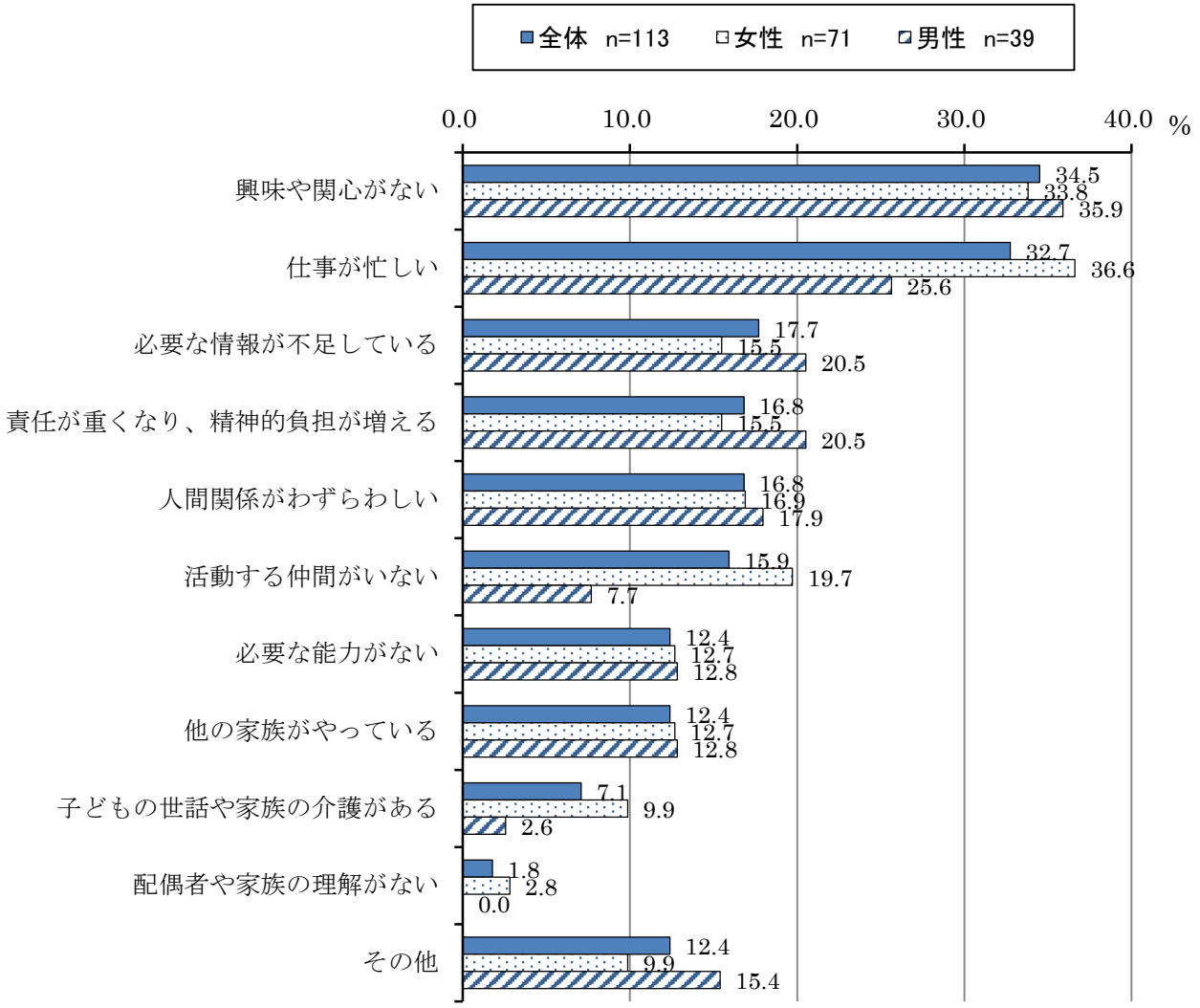
・参加させてもらえません
・体調不良
・人が苦手
・職場のある市町村の地域活動に参加している
・学校がいそがしい
・単身赴任中
・自分のペースで生活したい
・療養中
・体調が悪い状態であること
・自分の趣味の時間のため、時間がない
・高令　８０才
・2019 年より子ども会参加予定

（1）男女別

男女別での差異が大きいものとして、女性は男性に比べ「仕事が忙しい」（女性 36.6%、男性 25.6%）、「活動する仲間がいない」（女性 19.7%、男性 7.7%）の割合が高くなっています。

また、男性は女性に比べ「必要な情報が不足している」（女性 15.5%、男性 20.5%）、「責任が重くなり、精神的負担が増える」（女性 15.5%、男性 20.5%）の割合が高くなっています。

図　男女別　地域活動に参加しない主な理由



（2）男女別･年代別

10 代では男女ともに「他の家族がやっている」「興味や関心がない」が同率で最も高くなっています。20 代から 40 代女性では「仕事が忙しい」が、50 代女性では「興味や関心がない」が最も高くなりました。

男性では、20 代と 40 代で「興味や関心がない」が最も高く、50 代と 60 代で「仕事が忙しい」が最も高くなりました。

表　男女別　年代別　地域活動に参加しない主な理由

単位 ： %

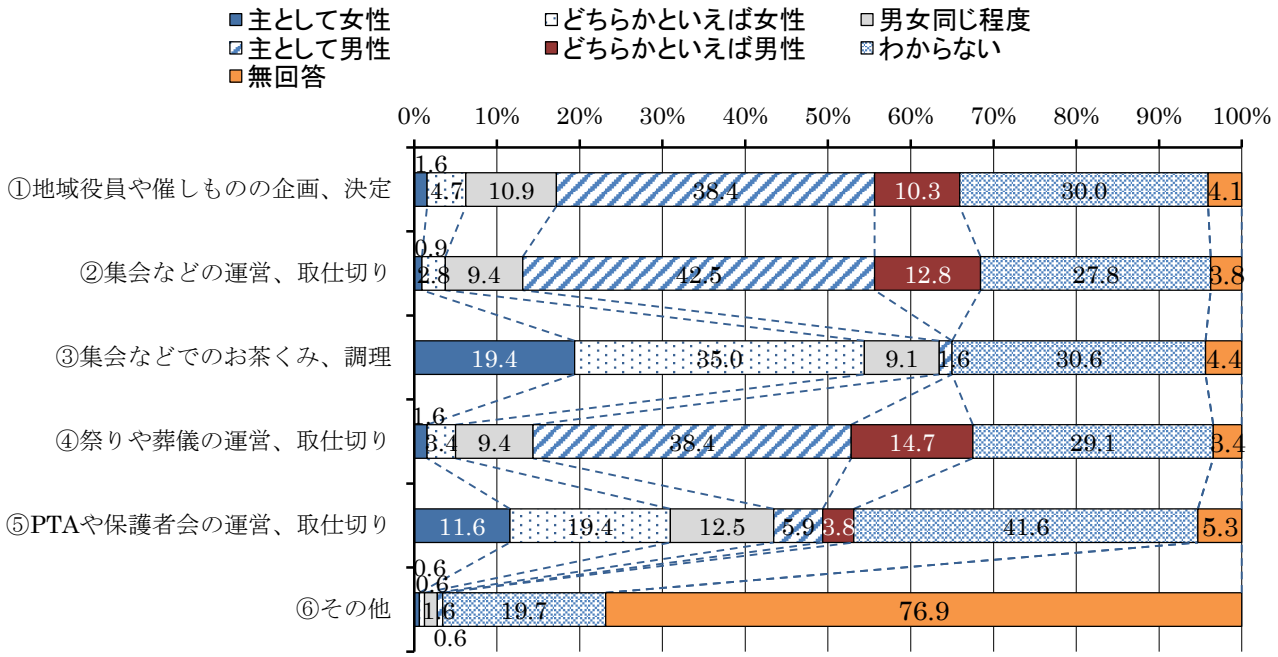
性別	年代	回答数	興味や関心がない	仕事が忙しい	必要な情報が不足している	責任が重くなり、精神的負担が増える	人間関係がわずらわしい	活動する仲間がいない	必要な能力がない	他の家族がやっている	子どもの世話や家族の介護がある	配偶者や家族の理解がない	その他	無回答
女性	10 代	6	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	20 代	15	40.0	60.0	6.7	13.3	20.0	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30 代	17	29.4	47.1	29.4	11.8	5.9	29.4	5.9	5.9	17.6	0.0	5.9	0.0
	40 代	8	25.0	62.5	0.0	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	12.5	0.0
	50 代	5	80.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60 代	8	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	70 歳以上	12	25.0	16.7	25.0	8.3	33.3	8.3	25.0	0.0	16.7	0.0	25.0	0.0
男性	10 代	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	20 代	5	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	30 代	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	40 代	6	66.7	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0
	50 代	7	14.3	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	60 代	9	33.3	44.4	22.2	22.2	33.3	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	70 歳以上	6	0.0	33.3	33.3	50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0

問 20　あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。
（①～⑥それぞれ１つに○）

「集会などでのお茶くみ、調理」「PTA や保護者会の運営、取仕切り」では、「主として女性」と「どちらかといえば女性」を合わせた“女性”の割合が高く、各々54.4%、31.0%となりました。これらは前回調査では、各々62.3%、30.9%で、「集会などでのお茶くみ、調理」は減少しています。

「集会などの運営、取仕切り」「祭りや葬儀の運営、取仕切り」「地域役員や催しものの企画、決定」では、「主として男性」と「どちらかといえば男性」を合わせた“男性”の割合が高く、各々55.3%、53.1%、48.7%、でした。前回の調査は各々57.2%、50.8%、52.7%で、大きな変化はありませんが、「祭りや葬儀の運営、取仕切り」でやや減少、「地域役員や催しものの企画、決定」でやや増加しています。

図　地域活動の男女の役割分担



●その他回答

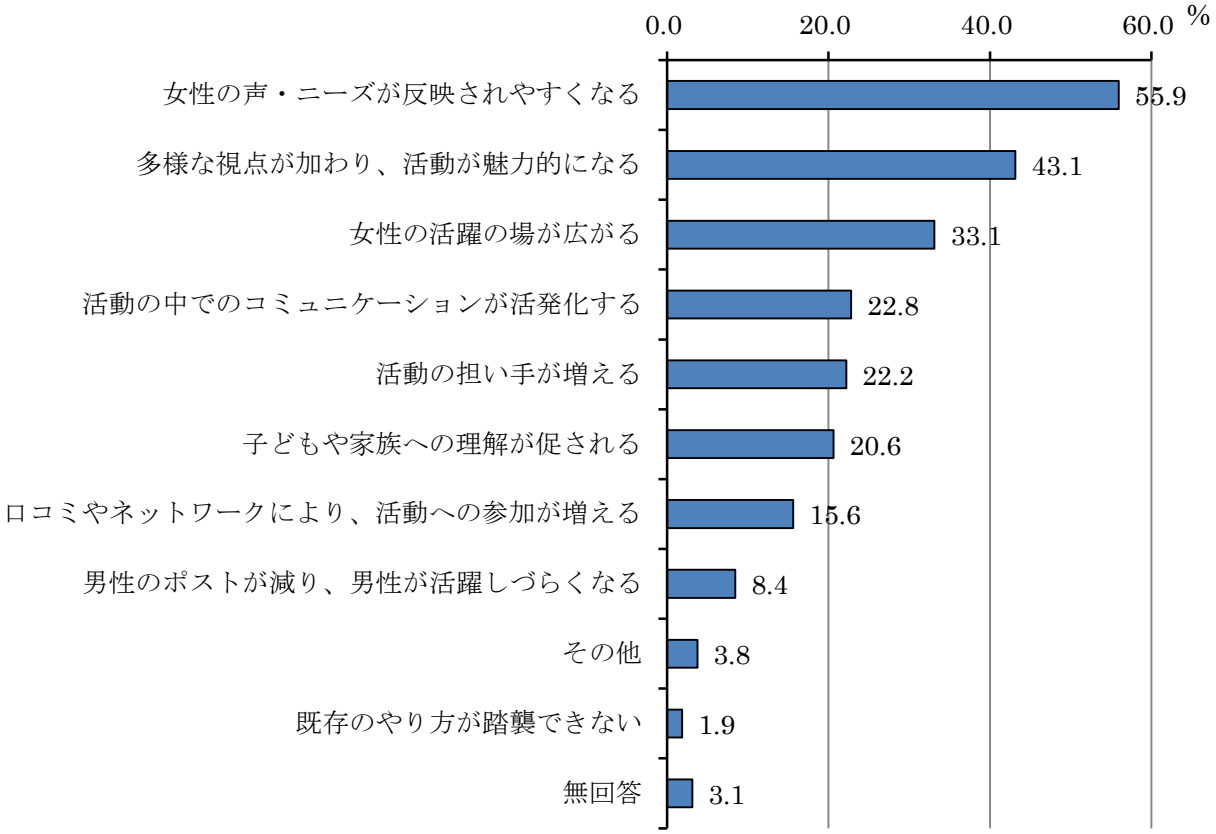
・何も参加していない
・子供会
・役員会で決定
・神社、区内清掃、寺清掃

問 21　地域活動で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（○は３つまで）

「女性の声・ニーズが反映されやすくなる」55.9%が最も多く、次いで「多様な視点が加わり、活動が魅力的になる」が 43.1%でした。続いて、「女性の活躍の場が広がる」33.1%と「活動の中でのコミュニケーションが活発化する」22.8%、「活動の担い手が増える」22.2%となりました。

「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」8.4%、「既存のやり方が踏襲できない」1.9%といった懸念項目の割合は大きくはありませんでした。

図　地域活動での女性の参加や女性リーダーの増加が与える影響



●その他回答

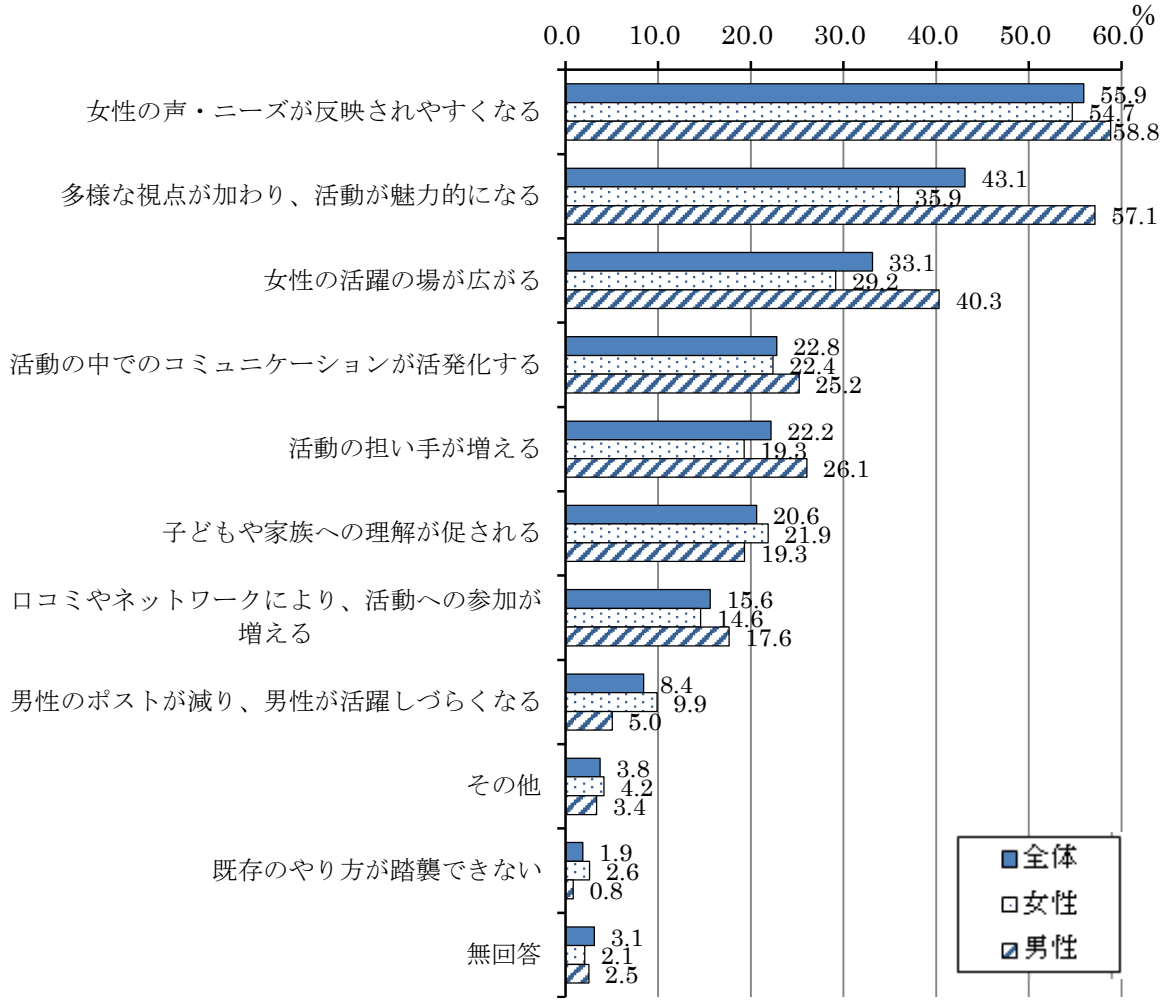
・目立つ影響は無い
・特に影響はないと思う
・女性のリーダーが増えて、仕事や、進め方等が変わる事は少しおかしい
・良い仕事や進め方ができれば男女関係ないと思う
・女性のグループ化を減少させる
・広い意見を聞く人を教育する必要
・女性特有の悪口、隠口が増える
・めんどくさいことが多くなる
・女性の負担が増えるだけ

（1）男女別

多くの項目で女性に比べ男性で地域活動に与える影響に期待する傾向が高い結果となりました。差異が大きかったものとして、男性は女性に比べて「多様な視点が加わり、活動が魅力的になる」（女性 35.9%、男性 57.1%）、「女性の活躍の場が広がる」（女性 29.2%、男性 40.3%）、「活動の担い手が増える」（女性 19.3%、男性 26.1%）が高い割合となりました。

女性は男性に比べて「子どもや家族への理解が促される」（女性 21.9%、男性 19.3%）の割合が高くなっています。

図　男女別　地域活動での女性の参加や女性リーダーの増加が与える影響



（2）男女別･年代別

全体で最多の「女性の声・ニーズが反映されやすくなる」は、男女ともに 70 代以上と、50 代女性で 50%を切り若干低めの数値になりました。

「多様な視点が加わり、活動が魅力的になる」は、10 代～40 代男性で高い割合にのぼりました。また、「女性の活躍の場が広がる」は、男性ではいずれの世代でも 40%前後の割合を占めましたが、10 代・30 代・40 代の女性では、20%前後と低くなっています。

表　男女別 年代別　地域活動での女性の参加や女性リーダーの増加が与える影響

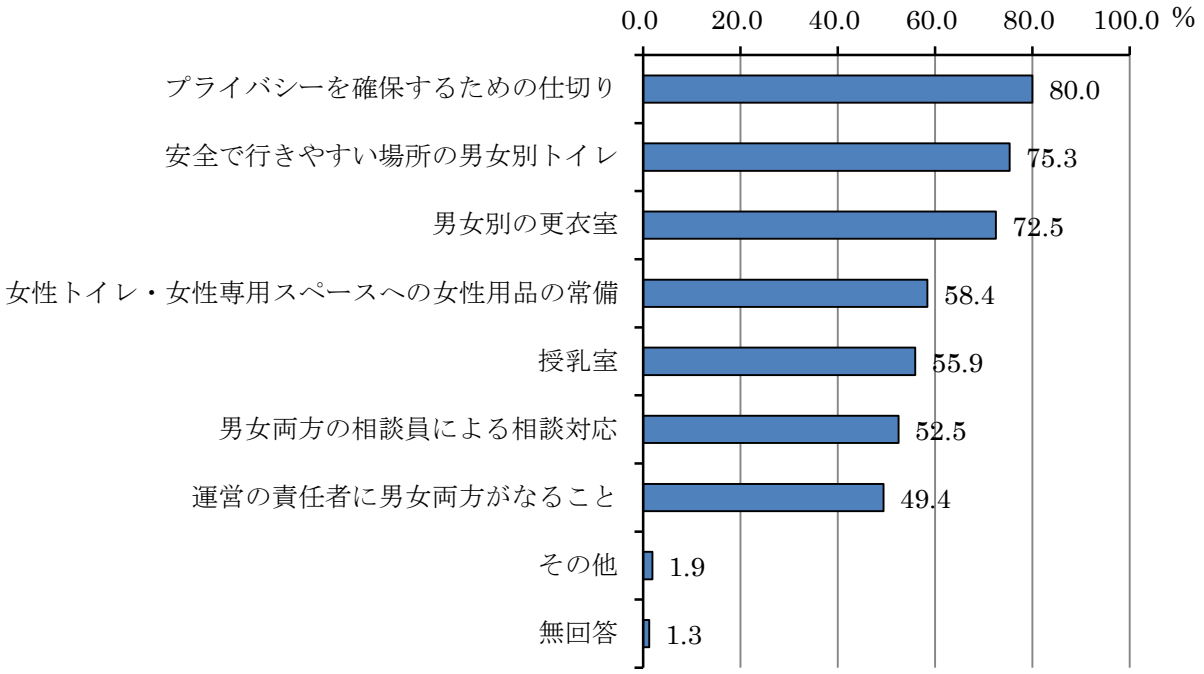
単位 ： %

性別	年代	回答数	女性の声・ニーズが反映されやすくなる	多様な視点が加わり、活動が魅力的になる	女性の活躍の場が広がる	活動の中でのコミュニケーションが活発化する	活動の担い手が増える	子どもや家族への理解が促される	口コミやネットワークにより、活動への参加が増える	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	その他	既存のやり方が踏襲できない	無回答
女性	10 代	10	70.0	30.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0
	20 代	17	64.7	41.2	35.3	29.4	11.8	23.5	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0
	30 代	30	70.0	30.0	23.3	13.3	20.0	23.3	10.0	13.3	6.7	0.0	0.0
	40 代	48	54.2	37.5	18.8	18.8	16.7	31.3	8.3	10.4	6.3	4.2	0.0
	50 代	27	37.0	37.0	29.6	18.5	25.9	11.1	18.5	3.7	0.0	7.4	3.7
	60 代	18	61.1	44.4	33.3	38.9	22.2	16.7	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0
	70 歳以上	42	45.2	33.3	42.9	31.0	23.8	19.0	28.6	11.9	2.4	2.4	7.1
男性	10 代	5	60.0	60.0	80.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	20 代	5	60.0	100.0	40.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30 代	14	57.1	78.6	35.7	28.6	28.6	42.9	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0
	40 代	18	66.7	72.2	38.9	5.6	33.3	27.8	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0
	50 代	18	66.7	50.0	38.9	27.8	22.2	5.6	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	60 代	27	63.0	37.0	40.7	25.9	29.6	29.6	18.5	0.0	11.1	0.0	0.0
	70 歳以上	32	46.9	53.1	37.5	34.4	25.0	6.3	21.9	9.4	0.0	3.1	9.4

問 22　自然災害が起きたとき、男女両方に配慮した避難所にするためにはどのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるものすべてに〇）

「プライバシーを確保するための仕切り」80.0%が最も多く、次いで「安全で行きやすい場所の男女別トイレ」75.3%、「男女別の更衣室」72.5%となりました。その他の項目も概ね 5 割以上の割合となり、これら項目への配慮の必要性を多くの人が感じています。

図　男女両方に配慮した災害時避難所にするために必要なこと



●その他回答

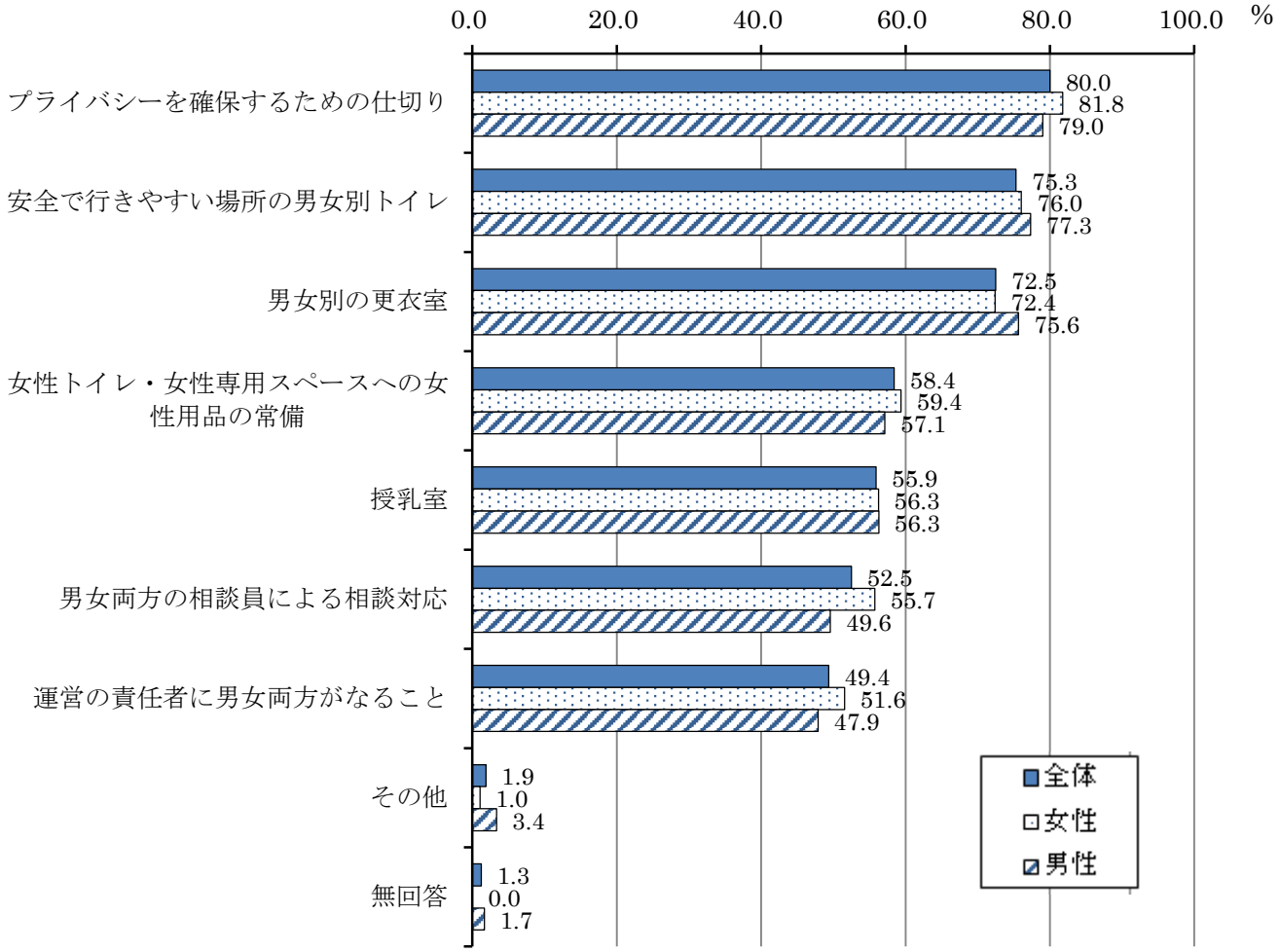
・年齢別の相談員
・男女別の数日分の下着、服
・男女と子供、老人等の年令別の事も考えるべき
・介護を必要としている人を預かってくれるところ
・LGBT への対応もできたら良いが・・・
・他にも色々あると思うが、何が必要かは分からない

（1）男女別

いずれの項目でも、男女での差異は大きく現れませんでしたが、多くの項目で女性の方が若干高い割合となっています。

差異が大きいものとして、女性は男性に比べて「男女両方の相談員による相談対応」（女性 55.7%、男性 49.6%）、「運営の責任者に男女両方がなること」（女性 51.6%、男性 47.9%）の割合が高くなっています。逆に、男性は女性に比べて「男女別の更衣室」（女性 72.4%、男性 75.6%）の割合が高くなりました。

図　男女別　男女両方に配慮した災害時避難所にするために必要なこと



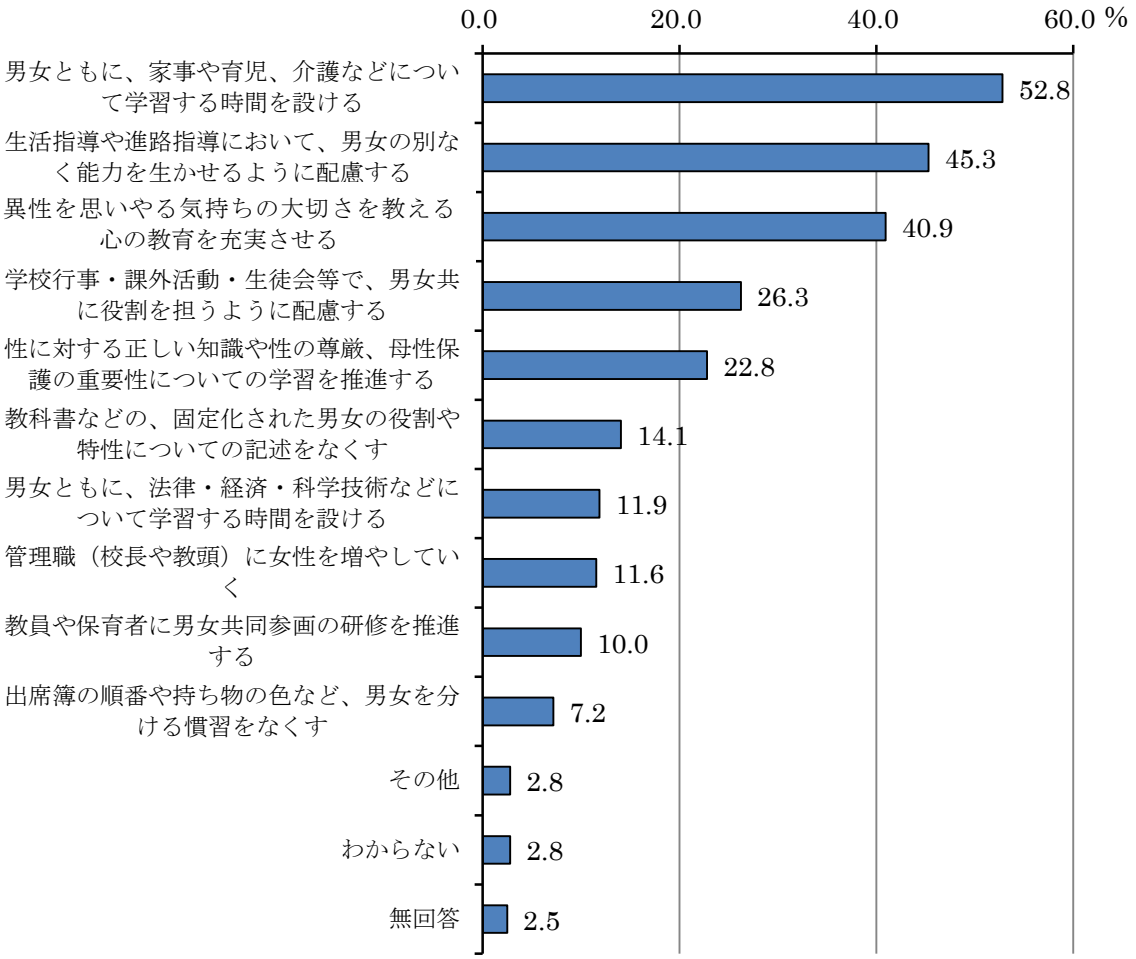
5　教育について

問 23　あなたは、男女が共に協力し合う社会を作るために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○は３つまで）

「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」52.8%が最も多く、次いで「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるように配慮する」45.3%、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」40.9%となりました。

前回調査でも、これらの３項目は各々、33.8%、40.0%、38.9%で同じく上記３位を占めていますが、この中で、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の回答が大幅に増加しました。

図　男女が協力し合う社会を作るために学校教育で力を入れるべきこと



●その他回答

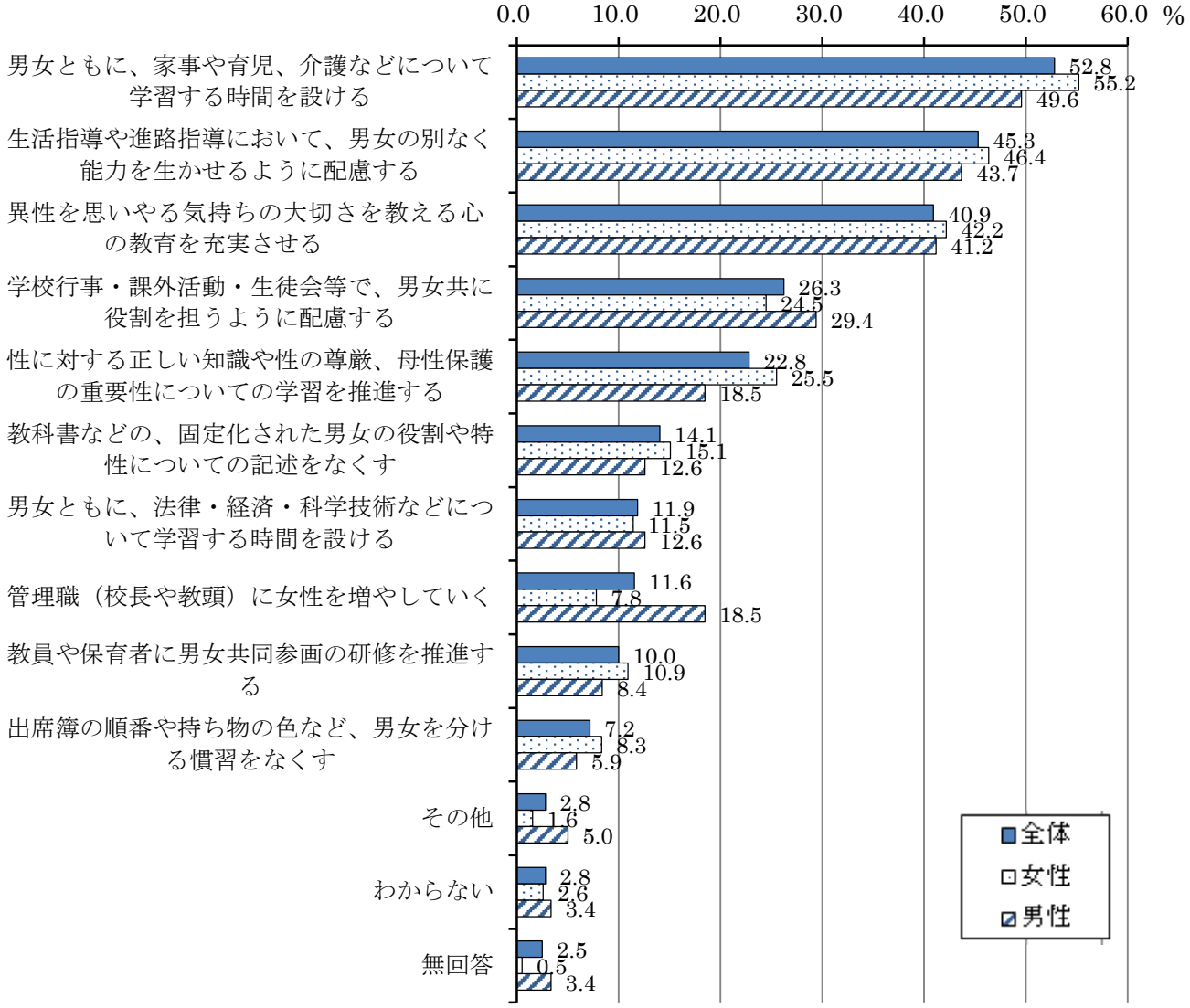
・むしろ女子の方が活発な生徒が多い　　・理系は男子、文系は女子という固定概念を壊す
・いいところを探す”　その視点をもってすごす毎日にする。いやなこと、困ったことは”どうしたのかな”と一息おく、そんな余裕のある環境が先生にも子どもにも必要
・体力に合わせた取り決めをする　　・出産＝母乳＋育児の方程式を無くす
・男女をまったく一緒にするのではなく女性を男性が守る事を学ばせると良い
・もっと女性ファーストを学ばせるべき　　・教師のへんけんをなくす。　　・自転車のマナー安全

（1）男女別

男女での差異が大きいもので、女性が男性に比べ高いものとして、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」（女性 55.2%、男性 49.6%）、「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」（女性 25.5%、男性 18.5%）があります。

男性が女性に比べ高いものとしては、「学校行事・課外活動・生徒会等で、男女共に役割を担うように配慮する」（女性 24.5%、男性 29.4%）、「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」（女性 7.8%、男性 18.5%）がありました。

図　男女別　男女が協力し合う社会を作るために学校教育で力を入れるべきこと

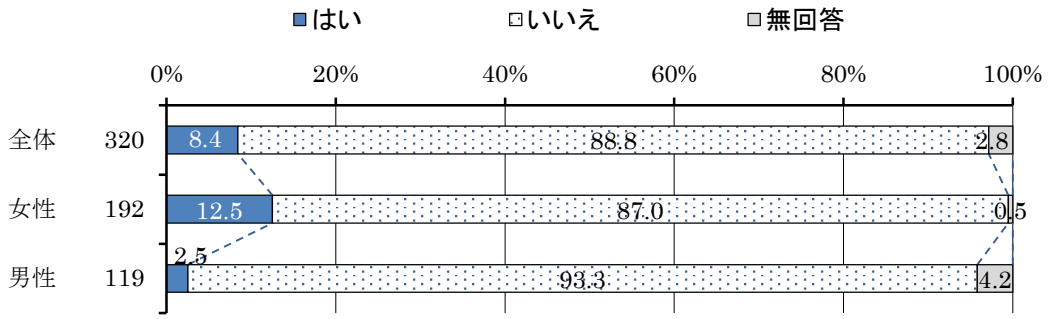


6　DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）について

問 24　あなたは配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がありますか。（○は１つ）

「配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある」は 8.4%で、女性 12.5%、男性 2.5%となりました。選択肢が若干異なりますが、前回調査では「自分が直接経験したことがある」が全体で 9.0%、女性 11.4%、男性 5.7%で、比較すると少し減少しています。

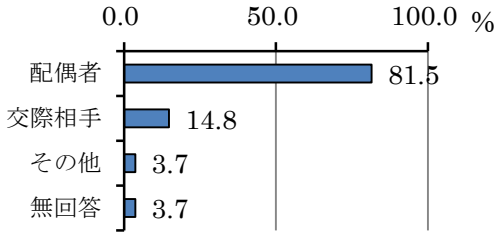
図　男女別　配偶者・交際相手から暴力を受けた経験の有無



問 25　問 24 で「はい」を選んだ方にお聞きします。それは誰からですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が 81.5%と大半を占め、次いで「交際相手」が 14.8%でした。

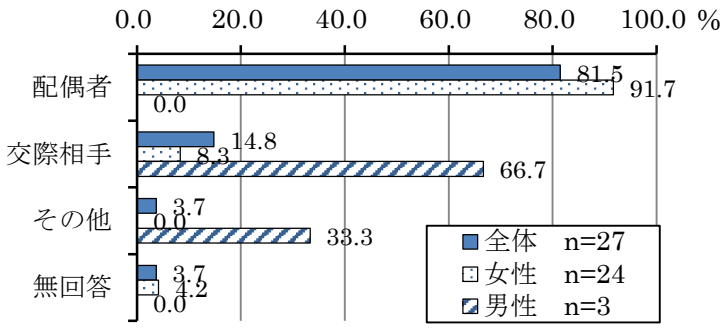
図　暴力を受けた相手



（１）男女別

女性では、「配偶者」が 91.7%とより多い状況にあります。男性は母数が３と限られている中での数値ですが、「配偶者」の回答はなく、３分の２が「交際相手」でした。

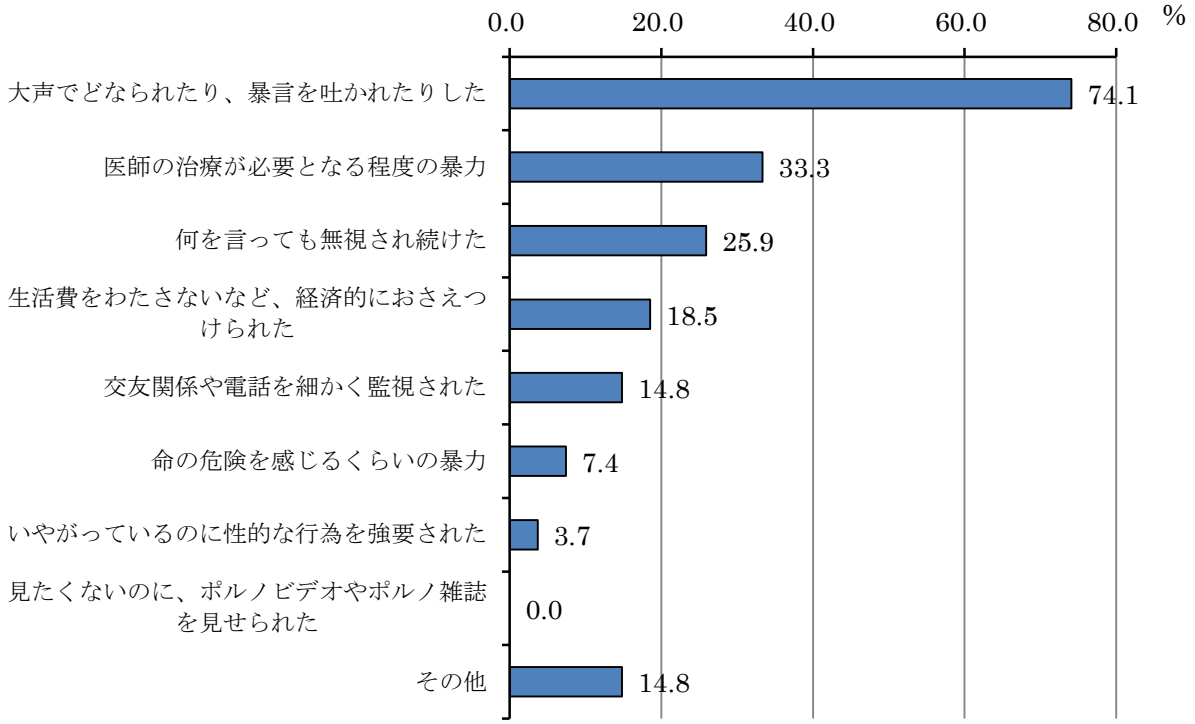
図　男女別　暴力を受けた相手



問 26　問 24 で「はい」を選んだ方にお聞きします。その内容はどんなものでしたか。（あてはまるものすべてに○）

「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」74.1%が最も多く、次いで「医師の治療が必要となる程度の暴力」33.3%、「何を言っても無視され続けた」25.9%、「生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた」18.5%、「交友関係や電話を細かく監視された」14.8%と続きました。

図　暴力の内容



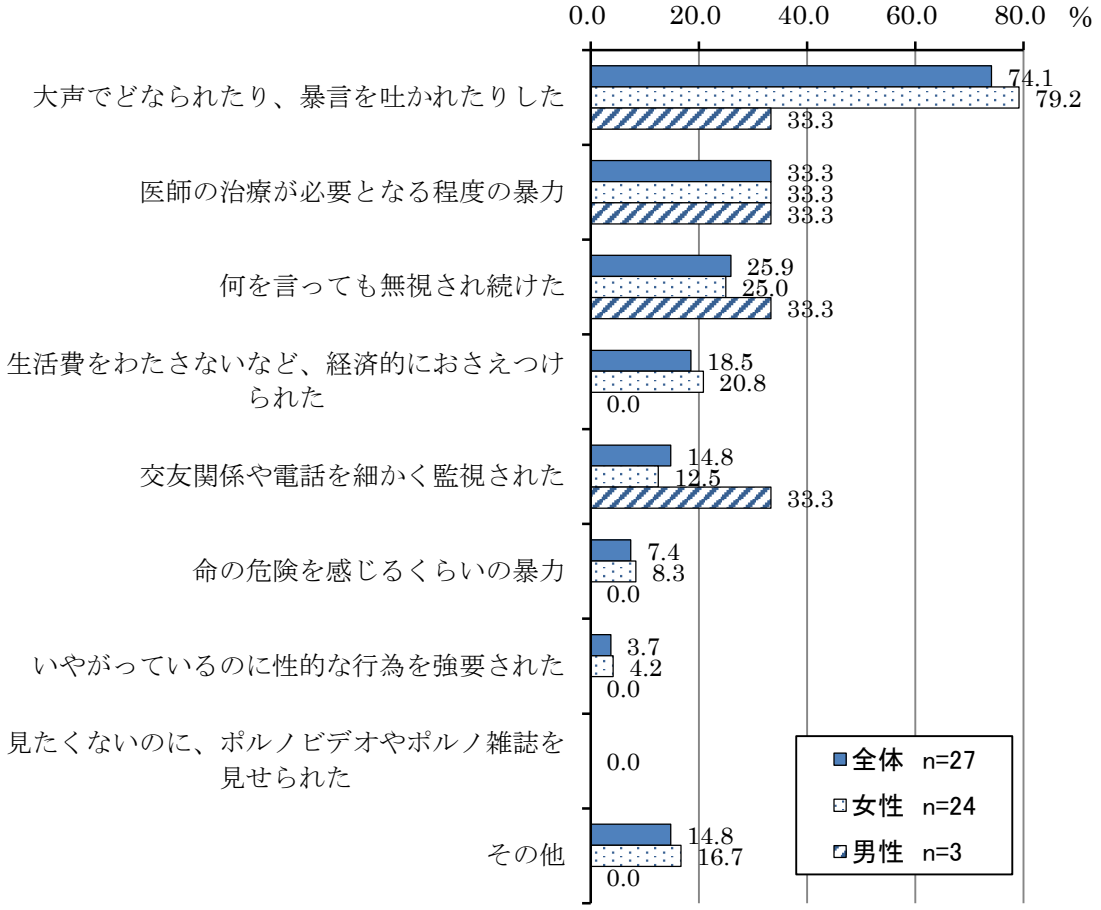
●その他回答

・家族を見捨て家を出ていった。
・直ぐに元へもどる
・感情的になり暴力を受けた
・物をこわす

（1）男女別

「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」は女性 79.2%、男性 33.3%で、女性は男性より高い割合となっています。

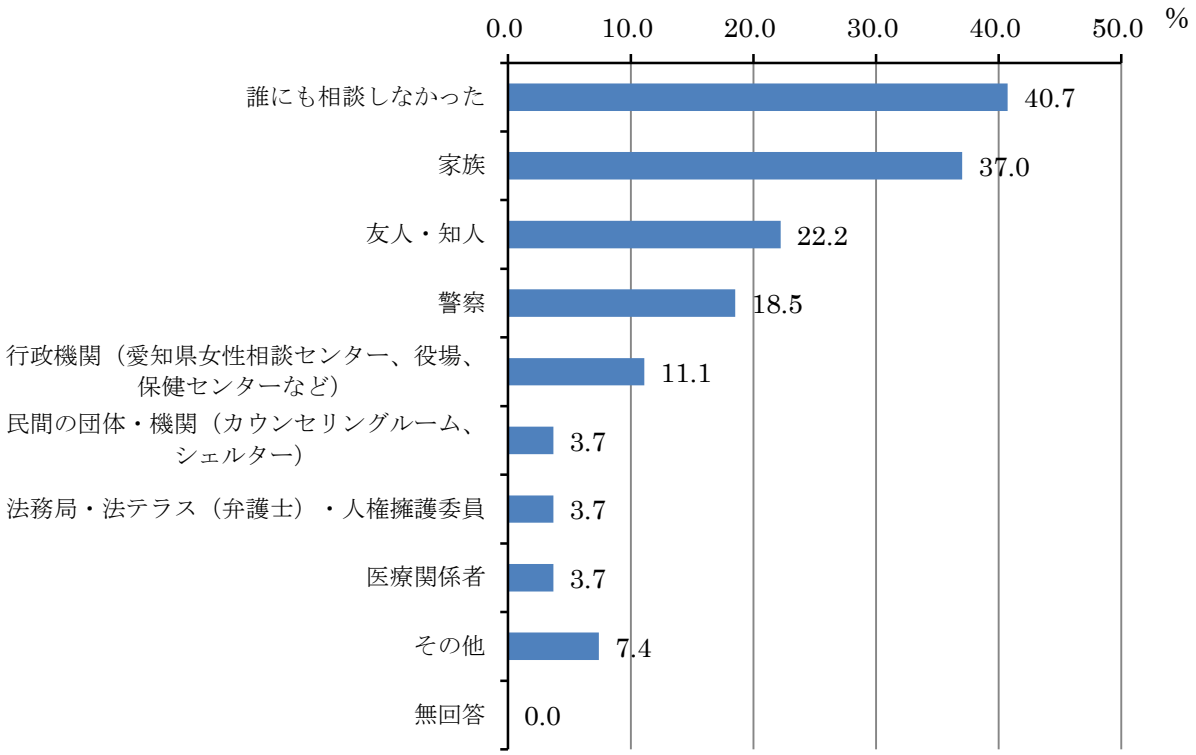
図　男女別　暴力の内容



問 27　問 24 で「はい」を選んだ方にお聞きします。その時に誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「誰にも相談しなかった」40.7%が最も多く、次いで「家族」37.0%、「友人・知人」22.2%の順となりました。「警察」18.5%、行政機関 11.1%も一定程度ありますが、各種相談機関や関係者に相談したという回答は少ない状況です。

図　暴力を受けた時の相談相手



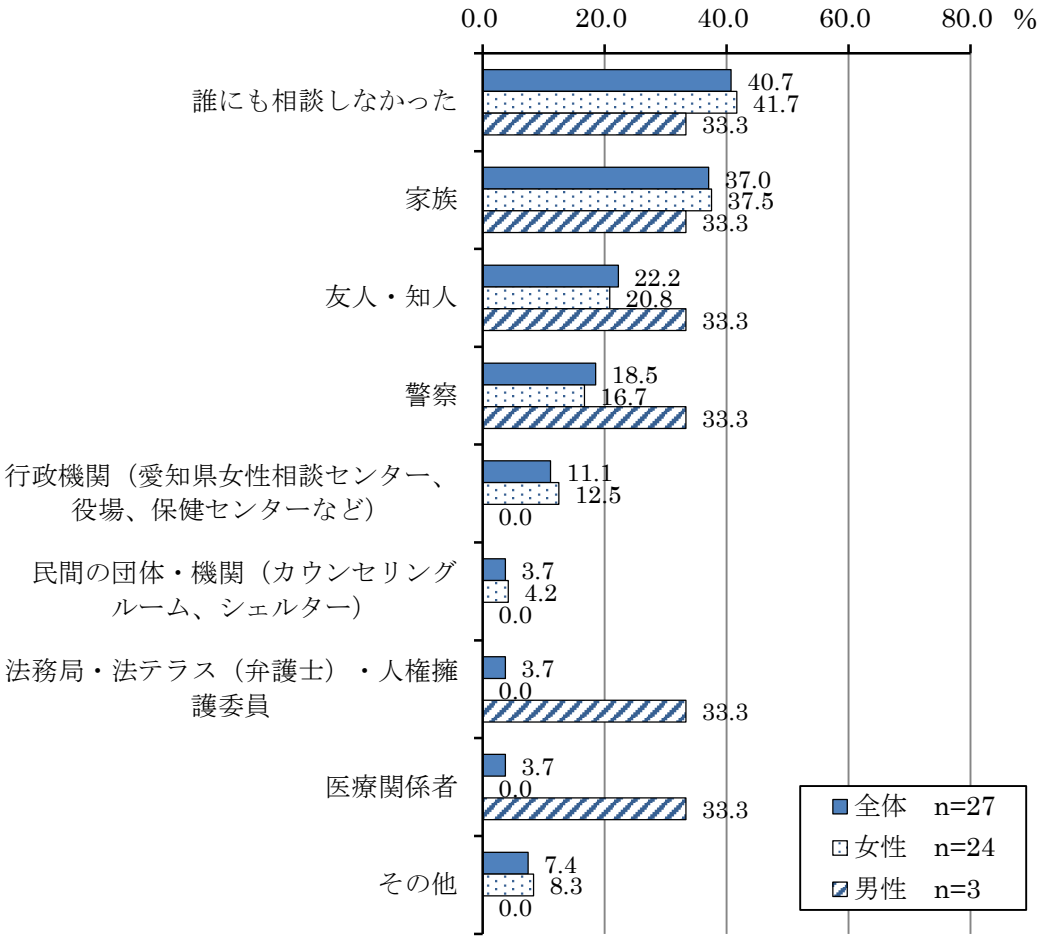
●その他回答

・実の母
・自分の親やおば・おじ

（１）男女別

「誰にも相談しなかった」は女性 41.7%、男性 33.3%で、女性は男性と比べ高い割合となっています。また、女性は「家族」（女性 37.5%、男性 33.3%）以外は、他者に相談することが少ない状況となっています。

図　男女別　暴力を受けた時の相談相手

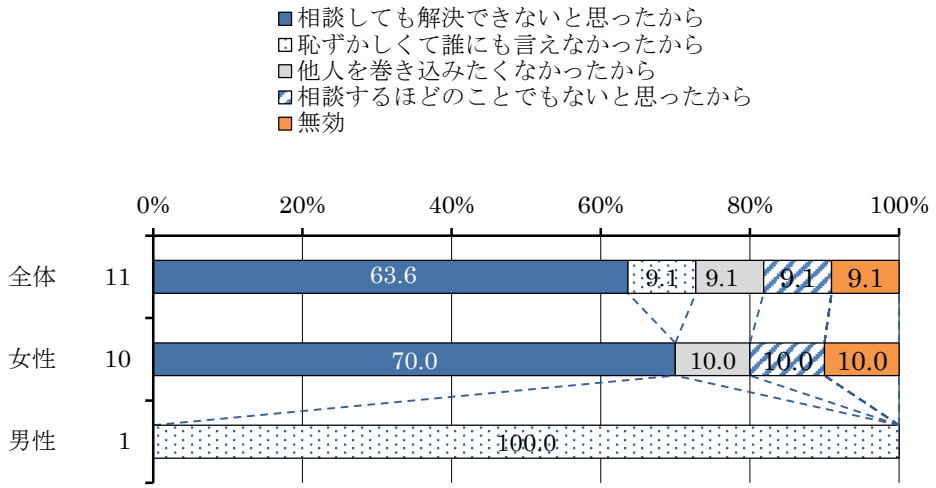


問 28　問 27 で「９．誰にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか。（○は１つ）

「相談しても解決できないと思ったから」63.6%が最も多く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「他人を巻き込みたくなかったから」「相談するほどのことでもないと思ったから」が各 9.1%となっています（いずれも回答数は１）。

男女別では、「相談しても解決できないと思ったから」は女性が高く、男性は、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が高い割合でした（ただし男性の回答数は１）。

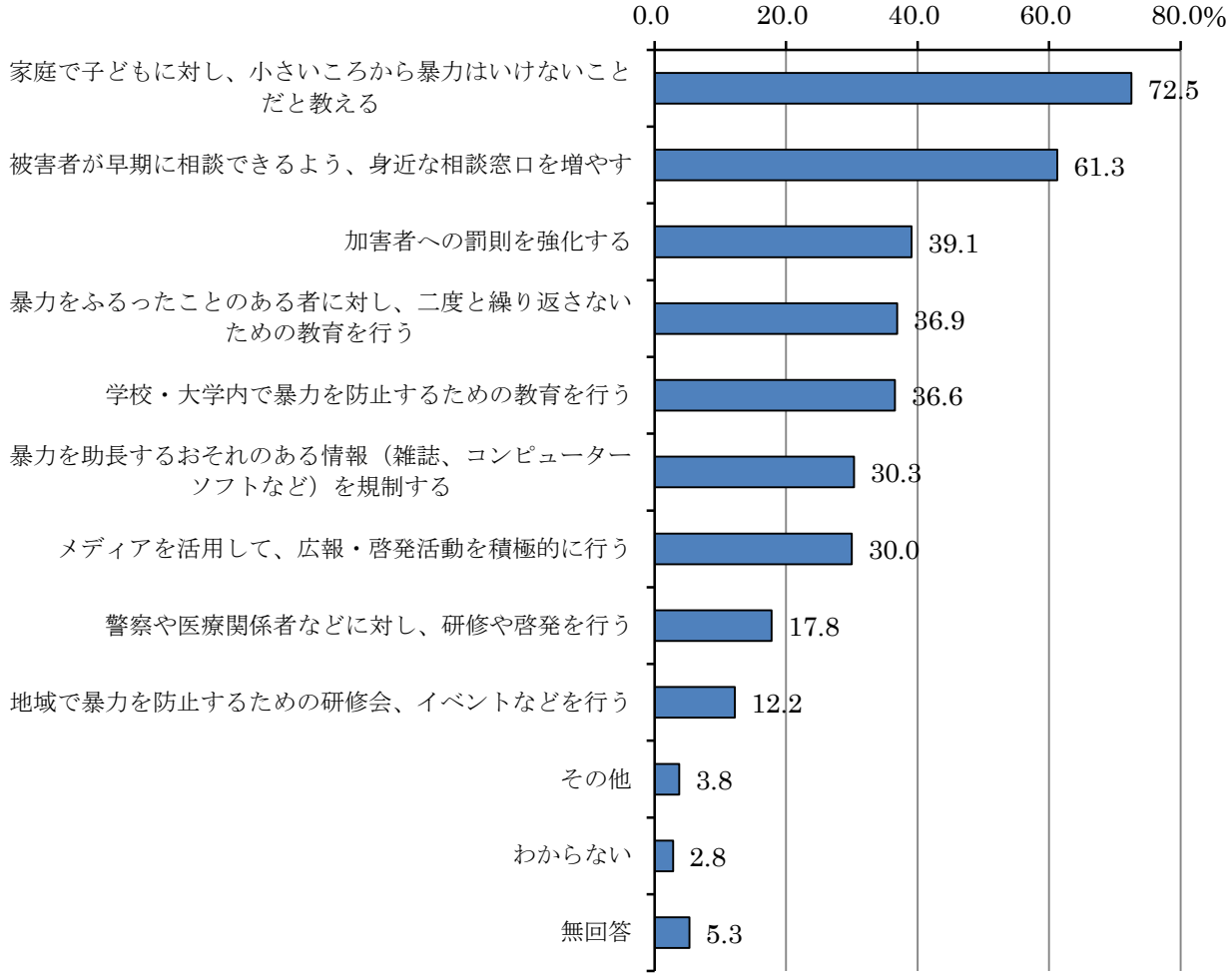
図　男女別　誰にも相談しなかった理由



問 29　男女間の暴力を防止するために必要なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」72.5%が最も多く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」61.3%となりました。その他、５項目で 30%を超える回答があり、男女間の暴力防止への意向の高さが表れています。

図　男女間の暴力を防止するために必要なこと



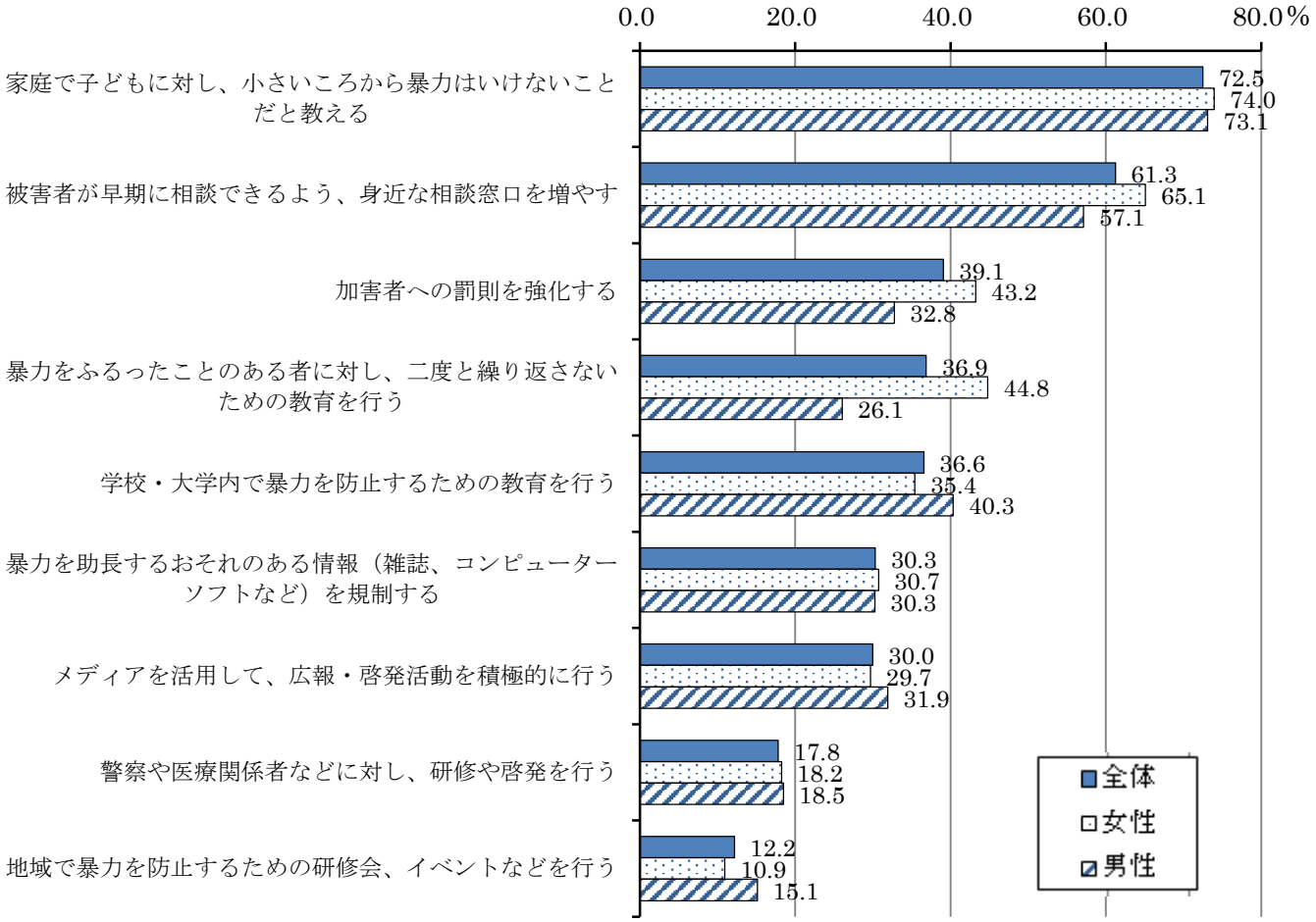
●その他回答

・暴力がなされた理由・背景をきちんと確認でき、対処できる人の教育
・警察が早い段階で介入できる様に法律を見直す
・男女間ではなく、男同子、女同子、で暴力とケンカの違いを教える。ケンカはお互いががまんすれば暴力は防げる
・すぐ逃げれる場所
・暴力が起こる前にきちんと男女間で話し合う
・家庭の問題の相談窓口が、みじかにあるといい。
・暴力に至るまでの経緯を考え精神面の強化を促進する
・生命の大切さや、相手を尊ぶ心を持つことを、早いうちから教育にとり入れる。
・発達障害、サイコパスなど影響を教える。
・人と人とのつき合い方、コミュニケーションがとれ、自分のことを一番理解できる人間にする教育・ストレスと向き合え、１人で抱えない環境をつくる。
・加害者側の原因をさぐり、医療的アドバイス、治療を行う
・生活苦から暴力をふるう人もいるので生活のみなおしが必要と思います

（1）男女別

男女別に見ると、多くの項目で女性の割合がより高くなっていますが、全般的傾向は共通しています。男女別の差異が大きいものとして、女性は男性と比べて「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（女性 65.1%、男性 57.1%）、「加害者への罰則を強化する」（女性 43.2%、男性 32.8%）、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」（女性 44.8%、男性 26.1%）と、具体的な仕組みや措置を必要とする傾向が見られます。男性が女性より高く、その差異が大きなものには、「学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う」（女性 35.4%、男性 40.3%）がありました。

図　男女別　男女間の暴力を防止するために必要なこと



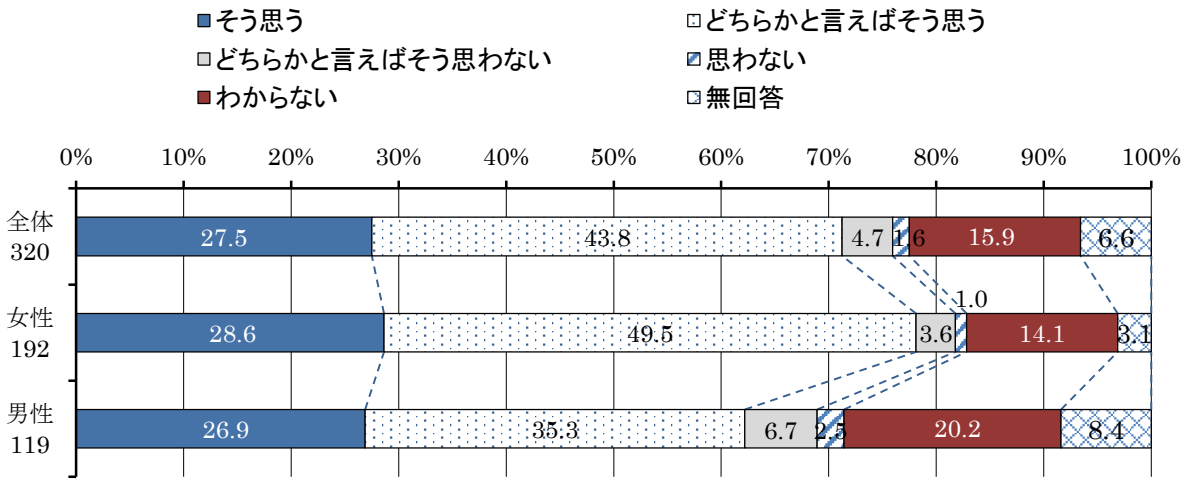
7　ＬＧＢＴについて

問 30　現在の社会は、ＬＧＢＴ（または性的マイノリティ・性的少数者）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○は１つ）

「そう思う」27.5%、「どちらかと言えばそう思う」43.8%で、２つの計＝“（広義の）そう思う”は、71.3%となりました。

男女別では、“（広義の）そう思う”は、女性 78.1%、男性 62.2%と、女性は男性より高く、他方、男性は女性より“（広義の）そう思わない”（女性 4.6%、男性 9.2%）、及び「わからない」（女性 14.1%、男性 20.2%）が高くなっています。

図　男女別　現在社会はLGBTの方々にとって生活しづらいと思いますか

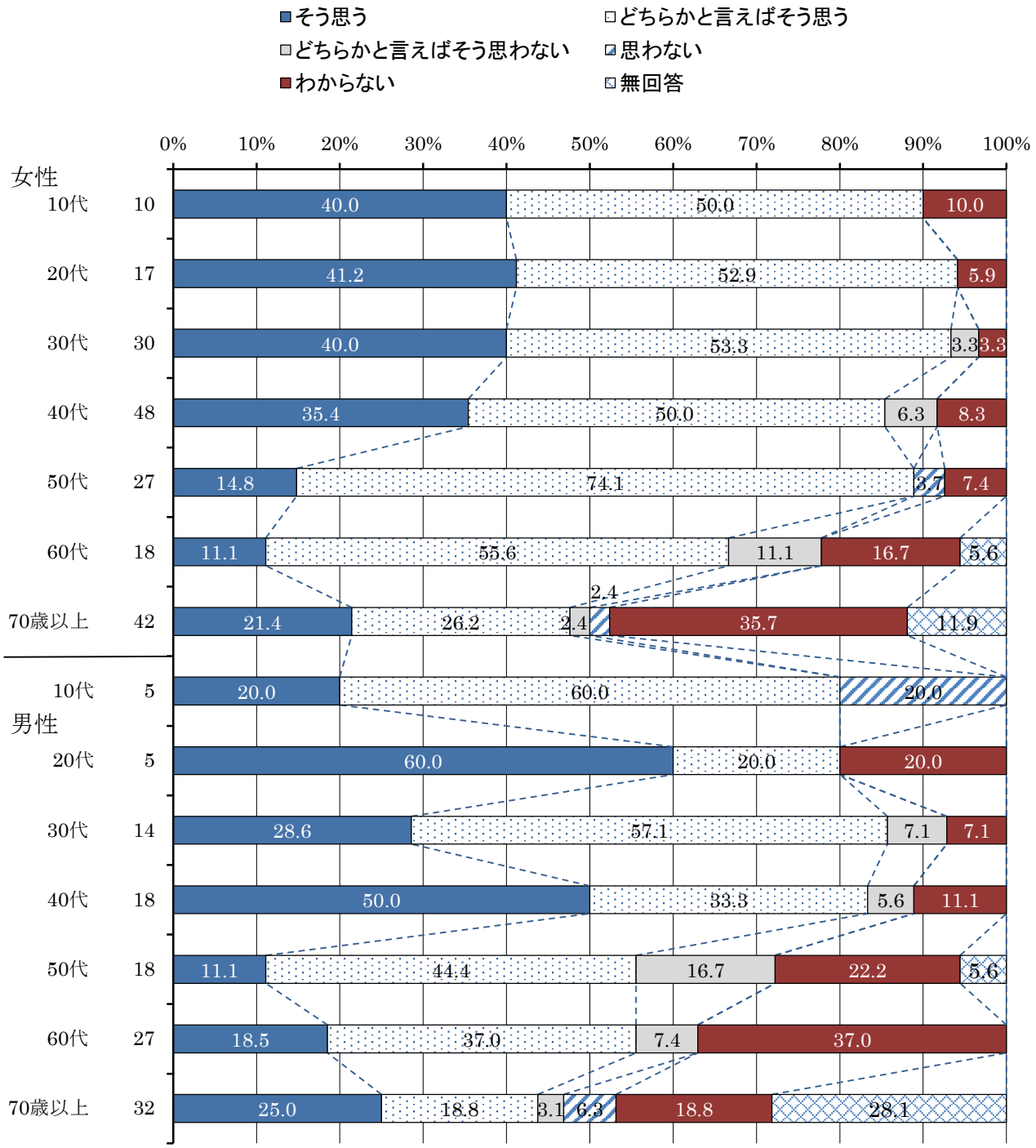


（1）男女別･年代別

「そう思う」は、10 代～40 代で高く、50 代以上は男女とも低くなる傾向にあります。ただし、男性では 10 代、30 代の比率がやや低く不規則性も見られます。また、60 代以上では、男女ともに「わからない」の比率が高くなっています。

“（広義の）そう思う”は、女性では 10 代～50 代で 80～90%以上の割合を占めています。男性では“（広義の）そう思う”は、10 代～40 代で 80%前後ですが、50 代では 55.5%となり、“（広義の）そう思わない”16.7%と増え、「わからない」も 22.2%と比較的高くなっています。

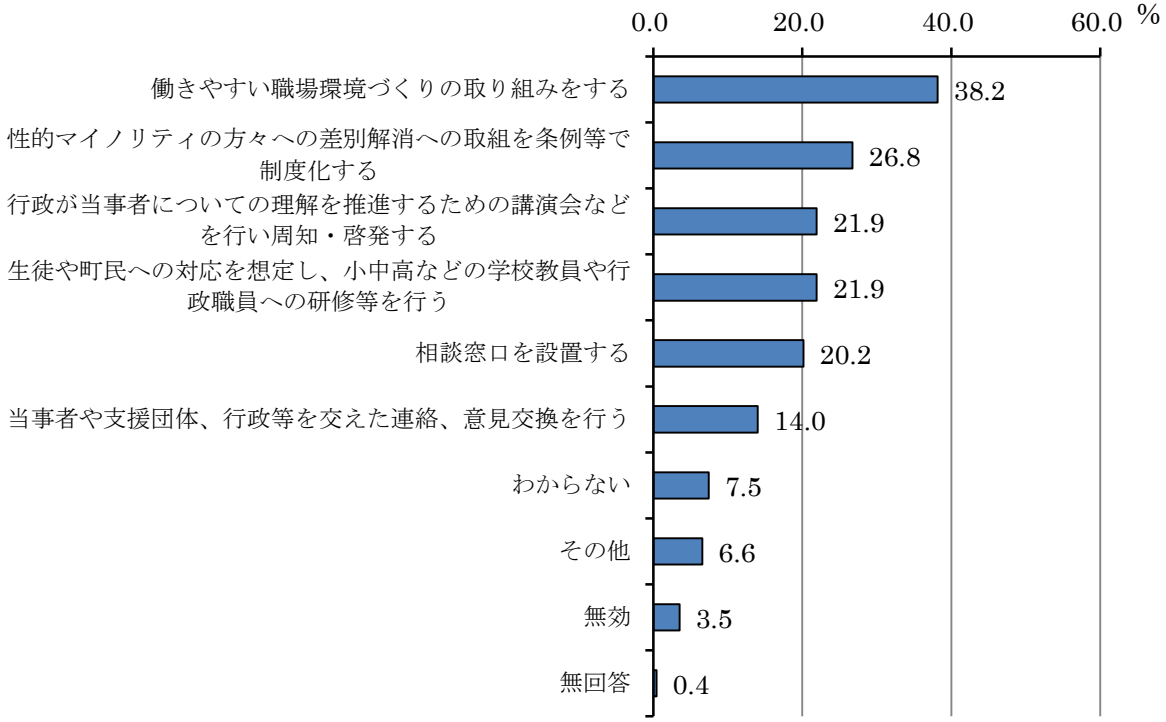
図　男女別　年代別　現在社会はLGBTの方々にとって生活しづらいと思いますか



問 31　問 30 で「１．そう思う」「２．どちらかと言えばそう思う」と回答した方にお聞きします。性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（○は２つまで）

「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」38.2%が最も高く、次いで「性的マイノリティの方々への差別解消への取組を条例等で制度化する」26.8%、「行政が当事者についての理解を推進するための講演会などを行い周知・啓発する」「生徒や町民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が各々21.9%、「相談窓口を設置する」20.2%になりました。

図　性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策



●その他回答

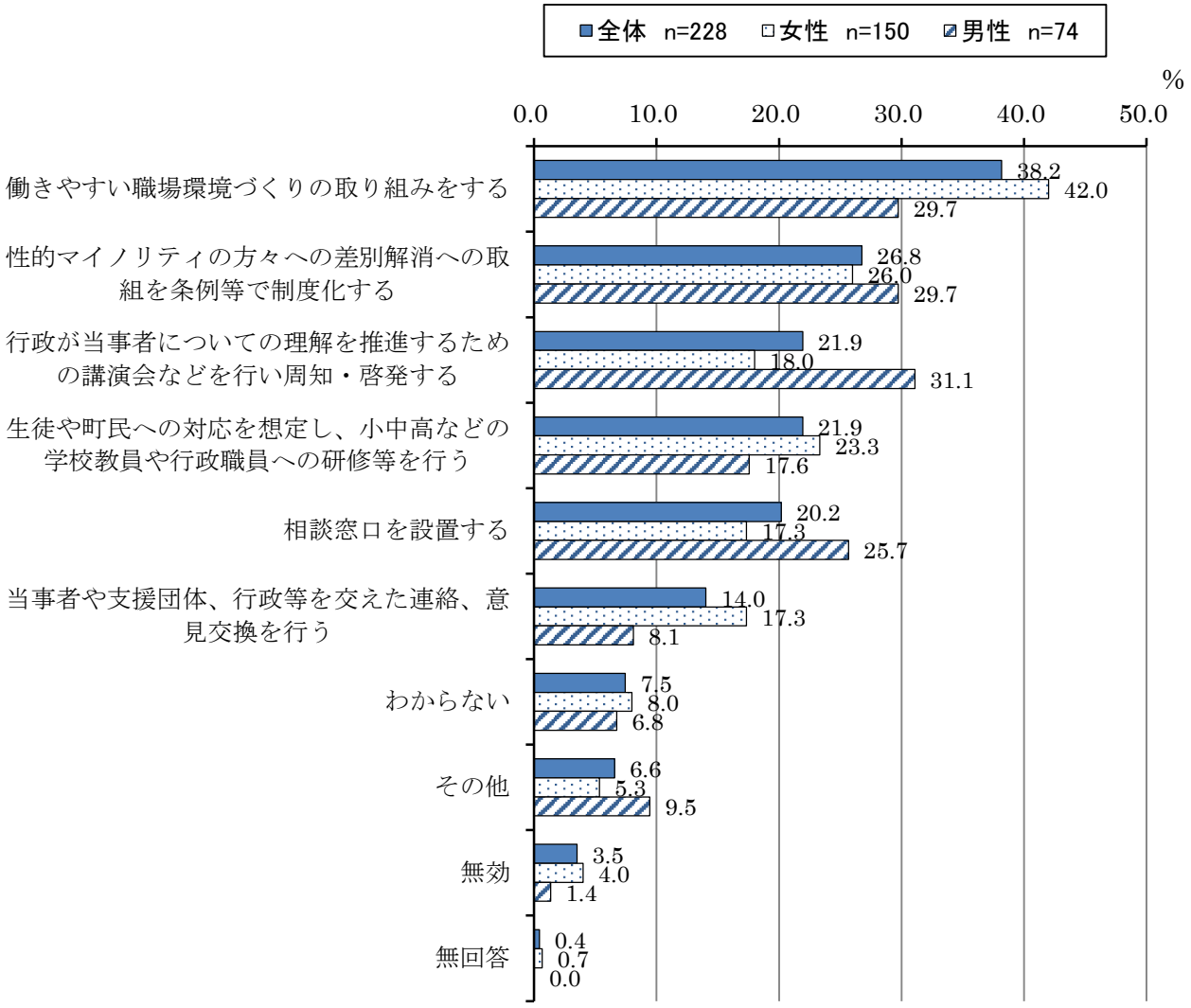
・偏見をなくす為、学校の授業などに取り入れる。　・LGBT への差別をなくすため、小学校からの LGBT への理解を促す授業の取り組み　・教育（小中学校）で　LGBT のことを学ぶ時間をつくる　・学校教育に入れる
・様々な性別があるということを、授業で教えていく。
・学校教育のあり方の見直し
・制服など男女区別あるものの撤廃か選択を増やす
・小さい頃から、他者を思いやり理解する環境を作る
・大人が偏見を持つだけ
・メディアを使って皆に LGBT は特別ではない、よくあると認識させる
・性的マイノリティに限らずマイノリティは間違っているという考えを変えれば色々と解決しそう。
・性的マイノリティの方々への理解を進めるべきだと思うがまず、どうすれば、どんなことから進めるべきなのかよくわからない
・あえて大事にしない。
・行政により解決できるものではない
・結婚できるように法律をかえるべき
・１人１人の個性を活かせる、思想を活かせる考えができる（受けとめられる）
・自分の固定観念では暮らしていけないということを考える、学び理解することを考えるシンポジウムみたいな物を行う

（1）男女別

男女差が大きいもので、女性が男性と比べて高いものとして、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」（女性 42.0%、男性 29.7%）、「生徒や町民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」（女性 23.3%、男性 17.6%）、「当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う」（女性 17.3%、男性 8.1%）があります。

男性が女性と比べ高いものでは、「行政が当事者についての理解を推進するための講演会などを行い周知・啓発する」（女性 18.0%、男性 31.1%）、「相談窓口を設置する」（女性 17.3%、男性 25.7%）があります。

図　男女別　性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策



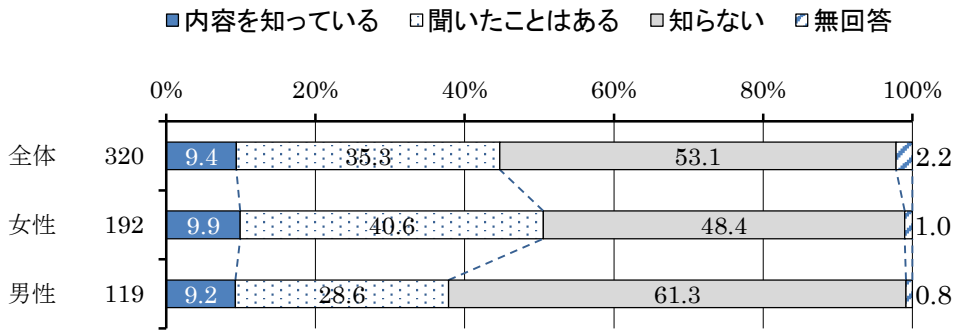
8　扶桑町の男女共同参画について

問 36　町では、「扶桑町男女共同参画プラン（平成 22 年～平成 31 年）」を策定して、男女共同参画を推進しています。このプランを知っていますか。（○は１つ）

「内容を知っている」は 9.4%、「聞いたことがある」35.3%、２つの計は 44.7%で、「知らない」53.1%が上回っています。

男女別では、「知っている」は大きな差異はありませんが、女性では「聞いたことはある」が多く、両者の計は 50.5%となり、「知らない」48.4%を上回っています。男性では、両者の計が 37.8%に留まり、「知らない」61.3%が大きく上回りました。

図　男女別「扶桑町男女共同参画プラン」の認知度の状況

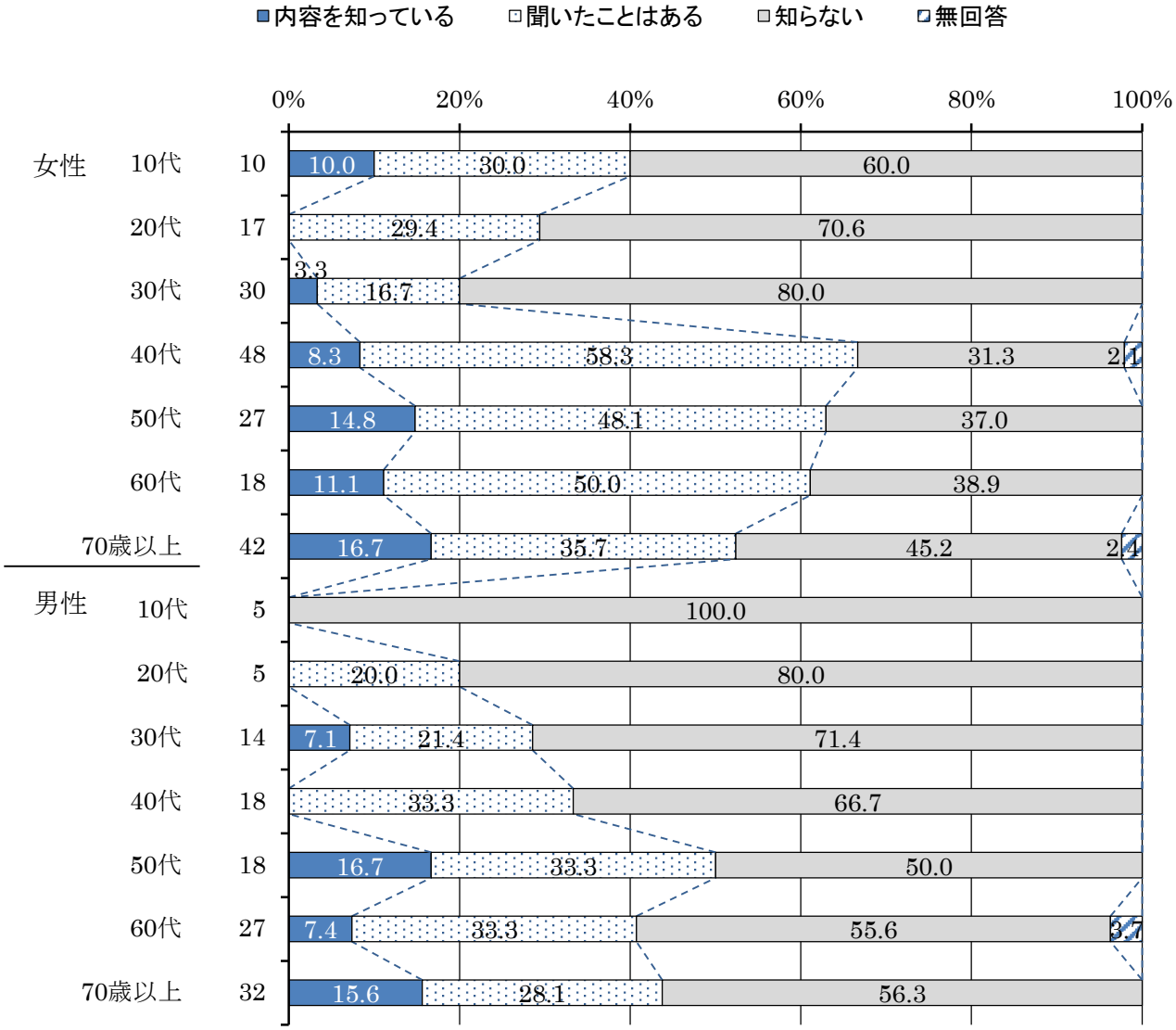


（1）男女別･年代別

「内容を知っている」は、50 代以上で比較的割合が高くなっています。「知らない」の割合は、若い世代で中高年と比べて高く、女性では、10 代 60.0%、20 代 70.6%、30 代 80.0%、男性では、10 代 100.0%、20 代 80.0%、30 代 71.4%でした。

40 代以上になると、女性では「聞いたことはある」が増え、「知らない」を上回るのに対して、男性では、「聞いたことはある」は 30%台にとどまり、いずれの世代でも「知らない」が過半数を占めています。

図　男女別年代別「扶桑町男女共同参画プラン」の認知度の状況

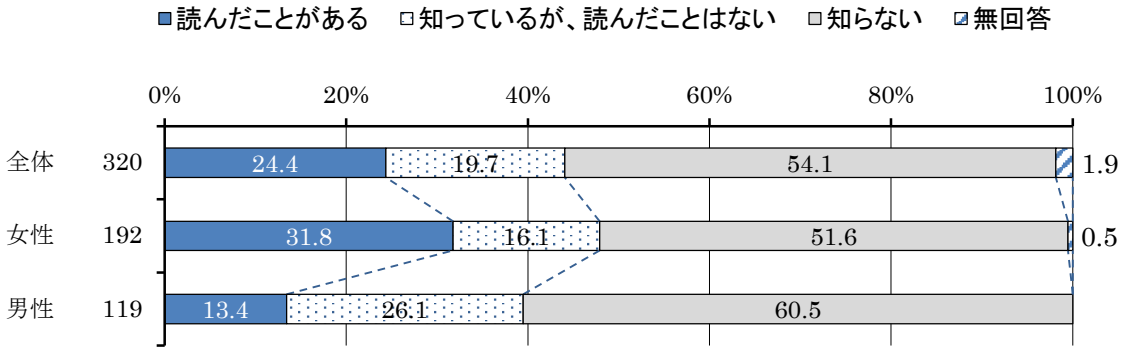


問 37 「広報ふそう」では、男女共同参画に関するコラムを掲載していますが、知っていますか。（○は１つ）

「読んだことがある」は 24.4%、「知っているが、読んだことはない」19.7%で、２つの計 44.1%でした。男女共同参画プランでの「内容を知っている」「聞いたことがある」の計 43.7%と同じ位の割合です。また、「知らない」54.1%が上回る結果となりました。

男女別では、「読んだことがある」は、女性 31.8%、男性 13.4%で、女性が大きく上回り、男性は女性と比べて「知っているが、読んだことはない」が高くなりました。また、「知らない」は女性で 51.6%、男性で 60.5%と、男性が高くなっています。

図　男女別「男女共同参画に関するコラム」の認知度の状況

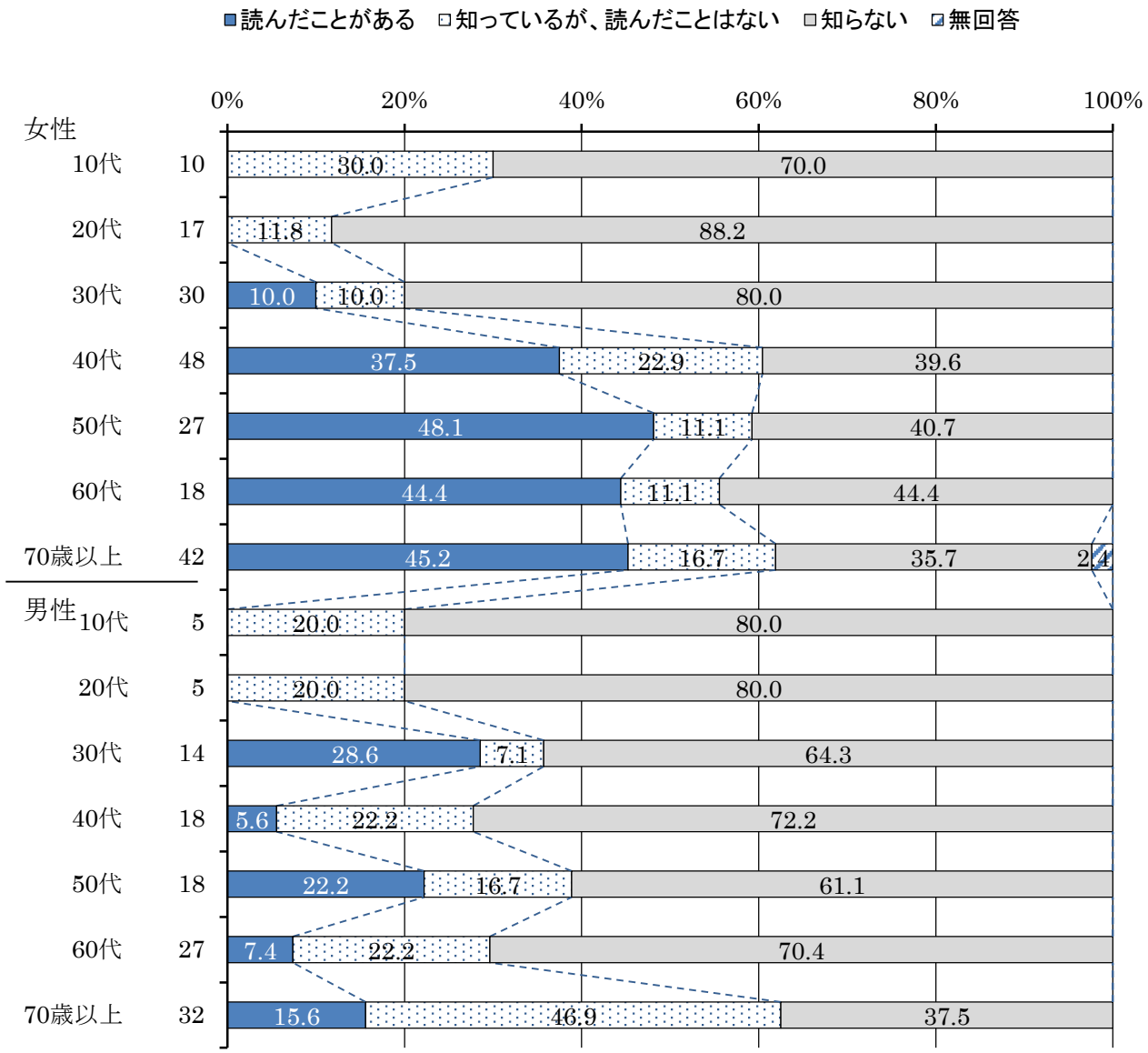


（1）男女別･年代別

「読んだことがある」は、40 代以上の女性で高く、40%～50%前後にのぼっています。他方で、10 代～30 代の女性では大変低く、「知らない」の割合も、70%～80%以上を占めています。

男性では、「読んだことがある」が 30 代、50 代、70 代以上で比較的高くなっていますが、「知らない」が 70 代以上を除いたほとんどの世代で、60%～80%と高い割合でした。

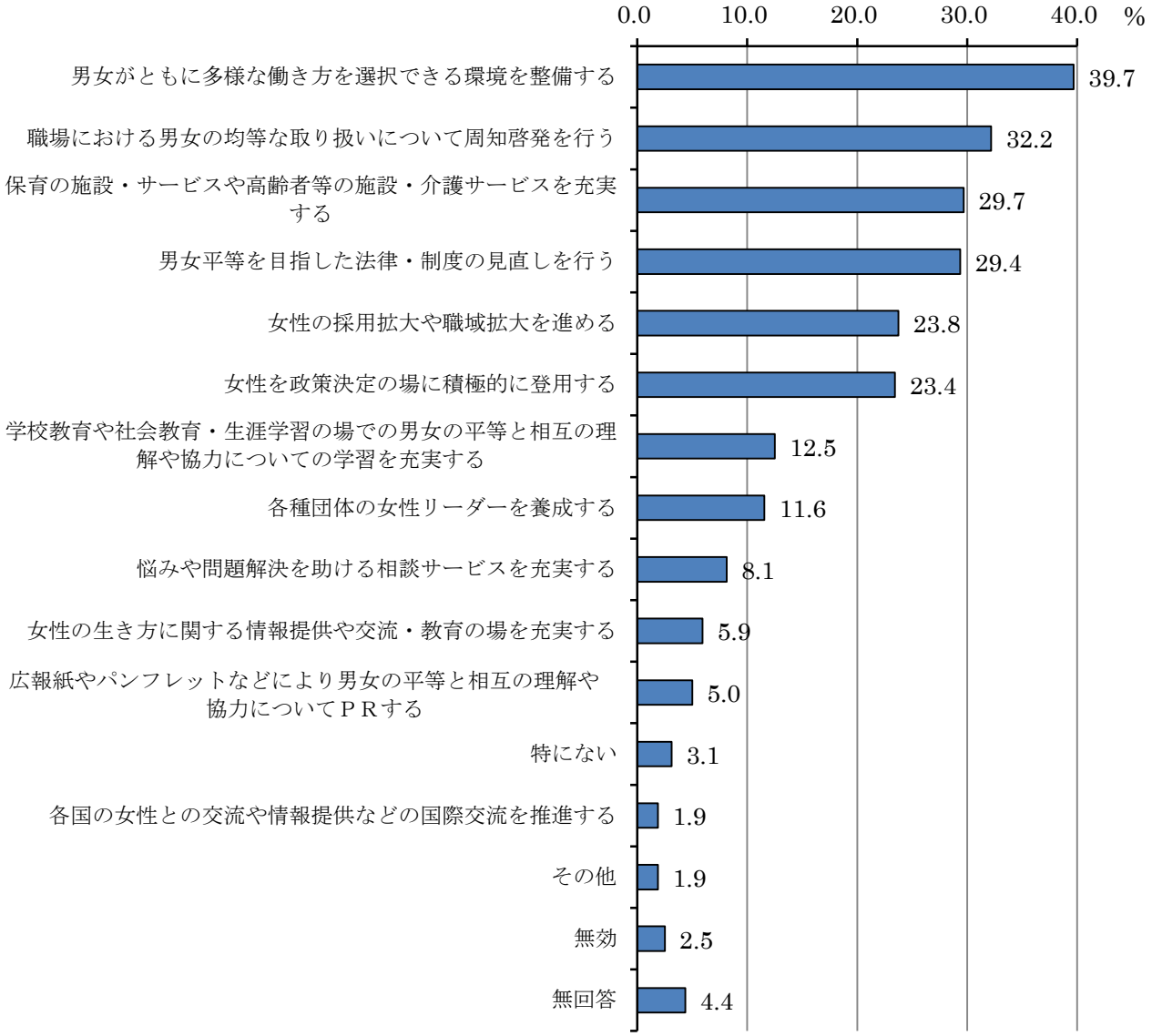
図　男女別年代別「男女共同参画に関するコラム」の認知度の状況



問 38　男女共同参画社会実現のために行政に望むことは何ですか。（○は３つまで）

「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」39.7%が最も多く、次いで「職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う」32.2%、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」29.7%、「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」29.4%が続きました。働き方の環境の整備や保育・高齢者介護等の社会サービスの充実に関わる項目が上位に挙がっています。

図　男女共同参画社会実現のために行政に望むこと



●その他回答

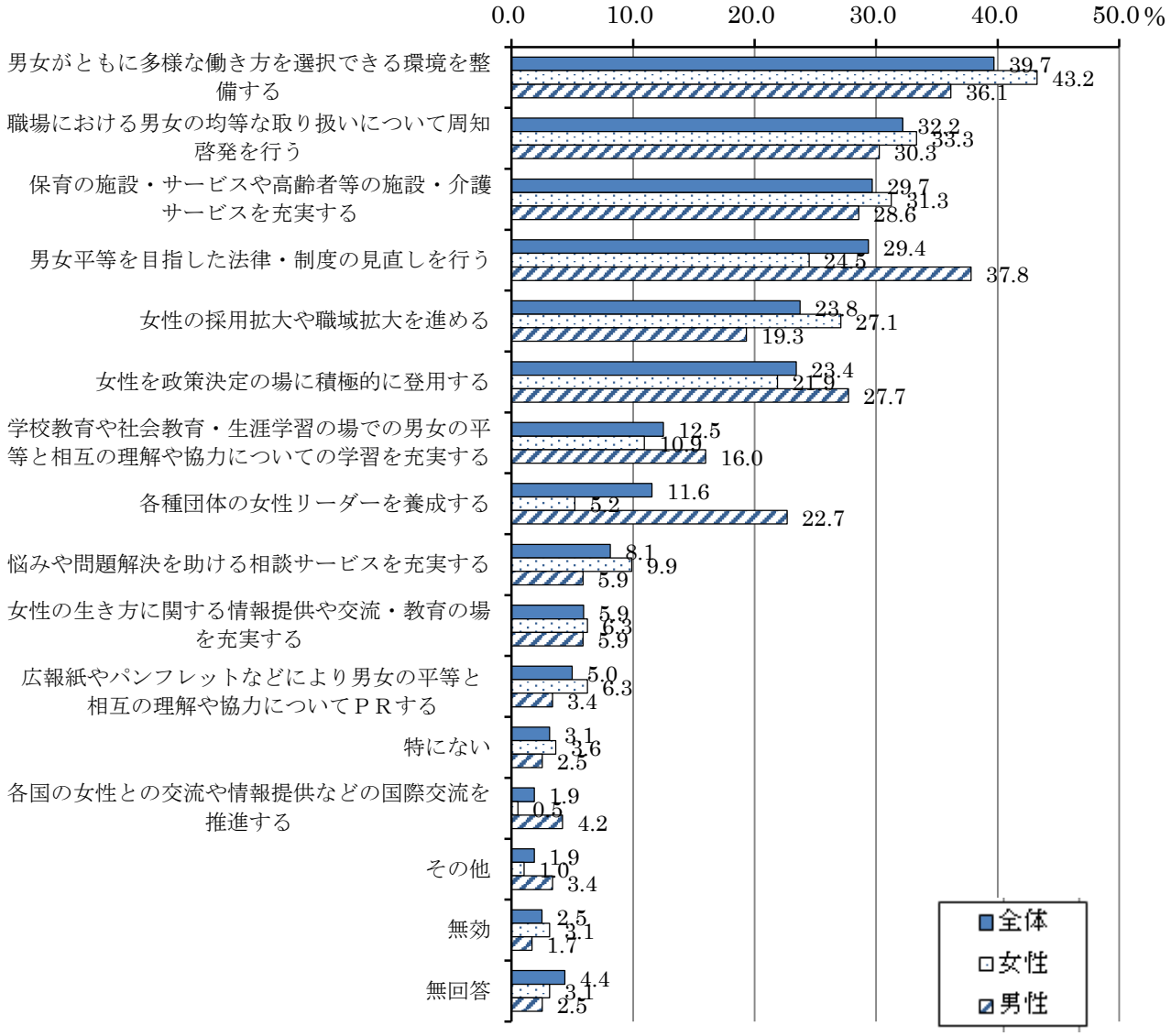
日にち、時間など、各家庭で自由に参加できる内容
性別に関係ない取組を全ての行政、政治で行う。女性特有の仕事、男性特有の仕事にあまり男女同一参画を強制しないようにする
行政が行う必要はない
役場の職員一人一人が男女共同参画社会を目指して日常生活を送る
男女の差をつけず頭のよい人間や知識の豊富な人間をリーダーにする

（１）男女別

男女別で差異が大きかったもので、女性が男性より高いものに、「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」（女性 43.2%、男性 36.1%）、「女性の採用拡大や職域拡大を進める」（女性 27.1%、男性 19.3%）がありました。

男性が女性より大きく上回った項目には、「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」（女性 24.5%、男性 37.8%）、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」（女性 21.9%、男性 27.7%）、「各種団体の女性リーダーを養成する」（女性 5.2%、男性 22. 7%）があります。

図　男女別　男女共同参画社会実現のために行政に望むこと



（1）男女別･年代別

「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」は、20 代～50 代女性、30～40 代男性で 40～60%台で高い割合を占めました。「職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う」は、20 代女性、10 代と 20 代男性では 40%前後で高く、50 代で男女ともにやや低い割合となりました。

「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」は、10 代女性、及び 10～40 代の男性で 40～60%台と高い割合となりました。また、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」は、30 代男性と男女ともに 60 代で高い割合となりました。

表　男女別　年代別　男女共同参画社会実現のために行政に望むこと

単位 ： %

性別	年代	回答数	男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する	男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う	女性の採用拡大や職域拡大を進める	女性を政策決定の場に積極的に登用する	学校教育や社会教育・生涯学習の場での男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	各種団体の女性リーダーを養成する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する	広報紙やパンフレットなどにより男女の平等と相互の理解や協力についてＰＲする	特にない	各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する	その他	無効	無回答
女性	10 代	10	30.0	30.0	20.0	40.0	10.0	20.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20 代	17	41.2	41.2	23.5	17.6	29.4	11.8	5.9	0.0	11.8	5.9	5.9	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	30 代	30	46.7	33.3	36.7	26.7	30.0	13.3	0.0	3.3	6.7	13.3	0.0	3.3	0.0	6.7	0.0	0.0
	40 代	48	64.6	35.4	27.1	25.0	33.3	14.6	12.5	2.1	6.3	6.3	6.3	2.1	2.1	0.0	2.1	2.1
	50 代	27	55.6	22.2	37.0	25.9	18.5	14.8	18.5	11.1	11.1	7.4	3.7	3.7	0.0	0.0	7.4	0.0
	60 代	18	33.3	33.3	38.9	11.1	11.1	50.0	5.6	5.6	22.2	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6
	70 歳以上	42	16.7	35.7	31.0	26.2	33.3	33.3	16.7	7.1	7.1	4.8	14.3	0.0	0.0	0.0	4.8	9.5
男性	10 代	5	20.0	40.0	60.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	20 代	5	20.0	40.0	40.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	30 代	14	57.1	21.4	14.3	50.0	21.4	42.9	0.0	28.6	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0
	40 代	18	44.4	33.3	38.9	61.1	16.7	16.7	22.2	16.7	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0
	50 代	18	33.3	16.7	33.3	22.2	11.1	22.2	11.1	27.8	5.6	16.7	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0
	60 代	27	33.3	37.0	22.2	33.3	18.5	40.7	22.2	25.9	0.0	7.4	3.7	0.0	3.7	3.7	7.4	0.0
	70 歳以上	32	31.3	31.3	25.0	31.3	18.8	25.0	18.8	18.8	18.8	0.0	9.4	3.1	3.1	0.0	0.0	9.4

問 39　男女共同参画プランでは、一人ひとりがお互いを認め、個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指しています。ご意見や必要と思われる取り組みがあれば、ご記入ください

●思いやり・心がけ

・男女と決めつけず、相手を思いやる気持ちが大切だと思う。（男性 60 代）

・男女別の性ホルモンの差は、性の特性で、出産可能な性は女性であるという動物的性差は変えられないので、両性ともに思いやりのある対応が必要であると社会全体で理解する環境が整備されることを望みます。（男性 60 代）

・男女平等の心がけを大切にする（男性 70 代以上）

・１人１人の個性を尊重する。自分が主体ではなく、取りまく環境、人間等の外的要員にまもられて自分がいるという考えで相手を思いやれる気持ちを持てる人間を育成できるようにしてほしい（女性 40 代）

・人付き合いが下手な自分は会社だけでいっぱいいっぱいです。言いたい事を誰よりも先に言った方が特する社会を変える事。（男性 40 代）

・愛知県民は全国的に見ても自己主義的で閉鎖的で社会性を身につけている人は少ない。対人関係を受け入れる寛大な心を養って協調性を身につけてほしい。スポーツでたとえると、個人競技はすぐれている人がいるが団体でチームプレーする競技は弱い・・・・・に現れている。職場でもまだ男女の格差があるように思う。改善されるよう願っている。（女性 70 代以上）

・男だ女だではなく、思いやりの心を養えば問題もある程度解決するのではないか（男性 50 代）

●コミュニケーション・協力

・毎日が、楽しく暮らせれるような環境、それには人々とのコミニケを大切に、やはり、時間をついやせれる人が、協力しあえれるような毎日一日一日が、努力しなければ、ならない！！（女性 70 代以上）

・神社の区長などの役は、男性がやるものと女性自身が女性がやることを反対している人が多いのは驚ろきました。大変な役なので、家庭の仕事との両立は、難しい。ご主人の協力なくしてできないとも思います。男女の力の差も考慮すべきですが、家庭の仕事の分担を考えて行かないと女性の進出は難しいです。（女性 50 代）

・今は共働きをしないと生活できないような社会。昔ほど男女の差はないと思う。私自身は自営業で育ち嫁いでも自営業だった為、親も２人で協力し、自分達も協力しないと出来ない環境だった。お互い思いやり、尊敬しあえば自然に助け合えると思う。６０も過ぎれば男性女性なんて言ってられませんお互い出来る事をするだけです。（女性 60 代）

・女性を前面にだすことによって男性の意見が通らなくなってしまうケースをみてきたので、お互いの意識の交流が特に必要かとも思う。参画という形にとらわれていると、本質を忘れることもあるので！！（男性 60 代）

●教育

・自治会の組織も男性が中心で女性は補助的な役割です。それを変えていくのはまだ時間がかかると思います。その地域の長年の風習みたいなものがあるからです。いろいろな政策も大切だと思いますが、まず意識改革から始めないといけないかなと思います。若い方は少しずつ柔軟に対応してけると思います。子供たちからの教育が大切だと思います。（女性 50 代）

・学校で、男女かんけいなく、助け合うことを学ぶと良いとおもいます（女性 50 代）

・もともと、男と女は体力の違いがあります。又、女性特有の子供を産む事ができるのが女性です。男女共同参画はすばらしい事ですが、女性に対して男女共同参画を無理じいするのではなく、あなた（ｙｏｕ）は何ができますかから入って、できる人が女性であった場合、素直に認める。女性だからできないという考えを持たせない教育を小さいときから学ばせるといいと思います。同様に男はできないという事も同事に学ばせる。大人になってから教えても、ＰＲしても変わらないと思います。子供のやわらかい考えの中でしっかり学ばせて１０年～１００年後の事を考えた事をして下さい（男性 60 代）

●個性の尊重、多様な生き方

・女性の中には、昔ながらの女性の役割でよいと考えている人もいる。強制的に男女共同参画を押しつけるのは良くない。それぞれの人が考える行動をとることに周囲が否定しなければ、それでよいのではないか（男性 30 代）

・単純に男女平等と言っても無理がある。それぞれに特化した能力を向上させれば共存もしやすくなる。男・女それぞれに活躍の場が出来る様に特典を設けたりすると、その町に人が住むと思う。扶桑町の良さを最大限に広めてほしい（男性 30 代）

・お互いを認め、個性と能力を発揮するためには、単純に男女を全く同一のものとして扱うことに反対。必要な配慮や、長所を生かしたり、補いあうなどのために何をするべきか考えていく必要がある。行政による強制、無理な過度な数値的目標達成のための女性登用は、当事者にも組織、社会にもマイナス。（男性 40 代）

・共同参画は理想だが、男、女は身体的、機能的、性理的に根本から異なる、ことを自覚し、全てを平等にする事には無理がある。（老人の古い考え方か？）（男性 70 代以上）

●まちづくり

・子どもを育てる世代が安心して生活できる事が長い目で見て、活力ある町づくりの基礎になると考えます。（男性 30 代）

・一人ひとりが男女逆の立場、LGBT の立場、子ども、老人の立場などさまざまな目線で町を歩いてみる、考えてみると、不便なことや横展開できることなどが見えてくると思います。（女性 30 代）

●行政

・職員の意識が低いので町民まで広がらない（男性 40 代）

・役場の職員も女性課長の登用をどんどん進めていくべきである。（男性 50 代）

・そもそも、今役場の中はどのような感じなのでしょうか。　男性優位になってませんか？（少なくとも、外からはそう見えます。）女性の活躍がもっと目立つようになるといい。（女性 40 代）

・名ばかりのプランを作るのなら、作らない方がいいですよ。結局、このプランを作って、どうしたいのか町の考えを知りたい（男性 40 代）

・まず、役場の職員一人一人が男女共同参画社会について理解し、行動しなければ町民には伝わらない。第一に、職員の意識向上が必要。役場で気運が高まれば、行政の政策にも熱が出てくると思う。（男性 20 代）

●行動を期待

・根気より継続して取り組む必要がある。法律や条例よりも直接行動して改善していく方が効果がある。私のような年金生活者はそういった教育も受けておらず受け入れることは難しいが協力はしていきたい(男性 60 代)

・色々な意見が挙がると思いますがやりもしないでボツにしないでやってダメならボツにすればいいと思います。(男性 30 代)

・ＰＲ活動が必要である。具体的な活動状況が必要。(男性 70 代以上)

●提案

・夫婦で参加できる（しやすい）→（小さな子供がいても）町のイベントを増やしてみる。(男性 40 代)

・男女混合スポーツ大会など差別なく出来ること。(男性 30 代)

●広報・啓発

・一般的な男子高校生の立場から言わせていただきますと「広報ふそう」やパンフレットをいくら発行してもまず見ません。リビングの机に置いてあっても開こうと思いません。また学校の授業で男女共同参画等について教えてもらっても普段気をつけようとは正直思いません。これは僕だけに限らずほとんどの高校生、中学生がそうだと思います。そこで僕が提案するのはインターネットの活用です。いまや子供、大人に限らずスマホの普及率はものすごいです。僕は「twitter」「instagram」をおすすめします。ひまりんなんかよりもっとかわいいゆるキャラを作る→ゆるキャラグランプリで話題→そのゆるキャラの写真(おもしろ系←かわいい系だと飽きられます）を SNS に投稿→その垢で男女共同参画推す（深い言葉で）←深い言葉はよく RT されて話題になります→皆に男女共同参画広まる！！　現代の若者はほとんどが SNS をやっているので若者への啓発にはとても良いと思います。(普段からおもしろ投稿をしていると長続きします)　僕は今まで「男女共同参画社会基本法」という法律名だけ社会で暗記していて内容までは理解できていませんでした。このアンケートを機に男女共同参画について深く考えることができました。ありがとうございました！(男性 10 代)

・共同参画を誰もが理解できるよう、もう少し分かりやすくする必要がある。理解しているようで誤解している人達が多いように思う。男性が負担と感じる場面で都合よく共同参画を持ち出すこともある。(女性 50 代)

・全ての機会をとらえて啓もうして行くことが必要である（女性 50 代）

●制度

・女性が家庭を持っていても働きやすいような労働環境や保育施設などの設置の他に、男性にも子育てや介護に参加できるような休暇制度やフレックスの導入など社会制度の根本からの改正を願う。若い人の将来のためによろしくお願いします。(女性 10 代)

・個々人が男女共働、共同であるとの認識を進めるために行政側が夫婦別姓や同性婚などの制度を先に整える方が、理解がすすむのではと思います。(女性 40 代)

・男女がゆとりを持って生活できるための法律や制度の整備（男性 50 代）

・家長制度　世帯主が男性なので結局、男性が主となってしまう。(男性 50 代)

●政治

・日本は制度（憲法、各種法律）に全ての人間は平等で機会も均等であると謳っているが実体は旧態依然。これを直すには政治、地方の組織そのものから改めて行く必要がある。（男性 70 代以上）

●女性の登用

・女性の首長、議員、管理職が全国的に少ないと思います。また、扶桑町、私が住んでいる地区では年配の男性の支配力が強いと思います。今生きている年配の方々の考え方が変わらなければ・・・と思います。（女性 40 代）

・あらゆるところで女性を登用する（町内の区長など）。男性が、女性の気持ちが分かるような教育。（女性 30 代）

●仕事・雇用環境

・男女平等といえど平等に出来ない職域もあるので全てを変えるのではなく、適正な職域においての男女共同参加等が出来るのが望ましい。また、学校行事等においても参加しやすい環境を望む（男性 40 代）

・近年核家族化が進み、生活水準が高くなり、共稼ぎ家庭が増加するなか、私は昔の２世代、３世代が一緒に生活していた時代が今の時代に参考になると思われる。子供を祖父母が、昼間見守り、子供に家庭の暖かさを教え、親の介護は家族で見守れば、医療費の負担も少なくなり空家の減少にもつながる、その為には、家から通勤できる職場があると良い、それが男女共同参画の暮らしの基本と思う。（男性 70 代以上）

・小学生の子供が２人いますが、長期休みの時に条件（１日４時間以上、月１４日以上）をクリアしていないと言われて、学童保育にエントリーすらさせてもらえませんでした。実際に必要だから申し込んでいるので、条件をつけずに受け入れてもらいたかった。これで職を失っている人、多いです。（女性 40 代）

●その他

・主旨とは違うかもしれませんが･･･”男”と”女”とかいうしばりが薄れると良いかもなと思います。「性的マイノリティ」という言葉も使わなくなるくらいに、多様な性が当たり前な世の中になってほしいと思っています。意見をする機会を与えてくださりありがとうございます。（女性 20 代）

・カカア天下、肝っ玉かあさん、マザコン、鬼嫁という表現があるように（あまり良い表現ではないが･･･）女性リーダーの方が頼れるかもしれないと思う。（男性 30 代）

・むかしから、今での扶桑町をおおきく、すごしやすい扶桑町を作っていかないですか！（男性 60 代）

・行政でできることと、地域でできること、町民ができることは　少しずつ違うはずなのでそこの風とおしはもっとよくなると町全体がいきいきしそう（女性 30 代）

・毎日が楽しく生きて行けるよう（男性 60 代）

・扶桑町に住んで 30 年以上　どれだけ他町に引越しようと思ったか知れません。でも金の問題でできませんでした。今でも、がまんして生活しています。毎日悲しい淋しい思いをしています。声をかけてくれる人はいません。アンケート下さってありがとうございます（女性 70 代以上）

●アンケートについて

・質問が、若い方に対しての様に、思えました。答えるのに考える事が、多かったと思いました。私自身が、答えるのに、エッと思う事が、多い気がしました。（女性 60 代）

・町民アンケートも良いですが、役場職員で記入。税金のムダ（通信費）（男性 60 代）

・この問題文に付きましては、すべての物が私自身にあてはまるのではないかと思うほど本当に頭のさがる思いがします。この文章を読みありがたく何度も何度もどの問題の文章も読みました。ありがとうございました。（女性 70 代以上）